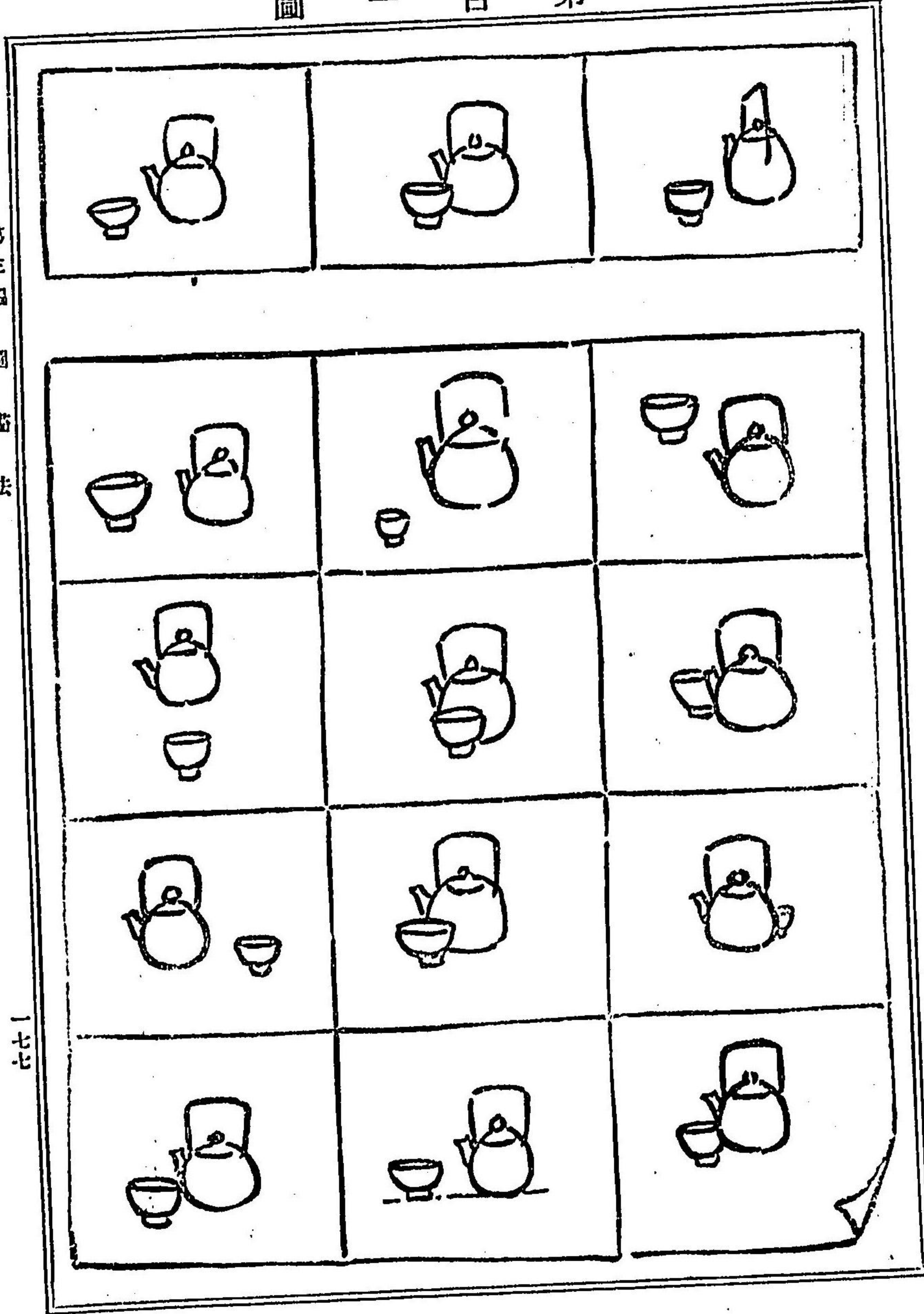


圖 一 百 第



終三編 圖 畫 法

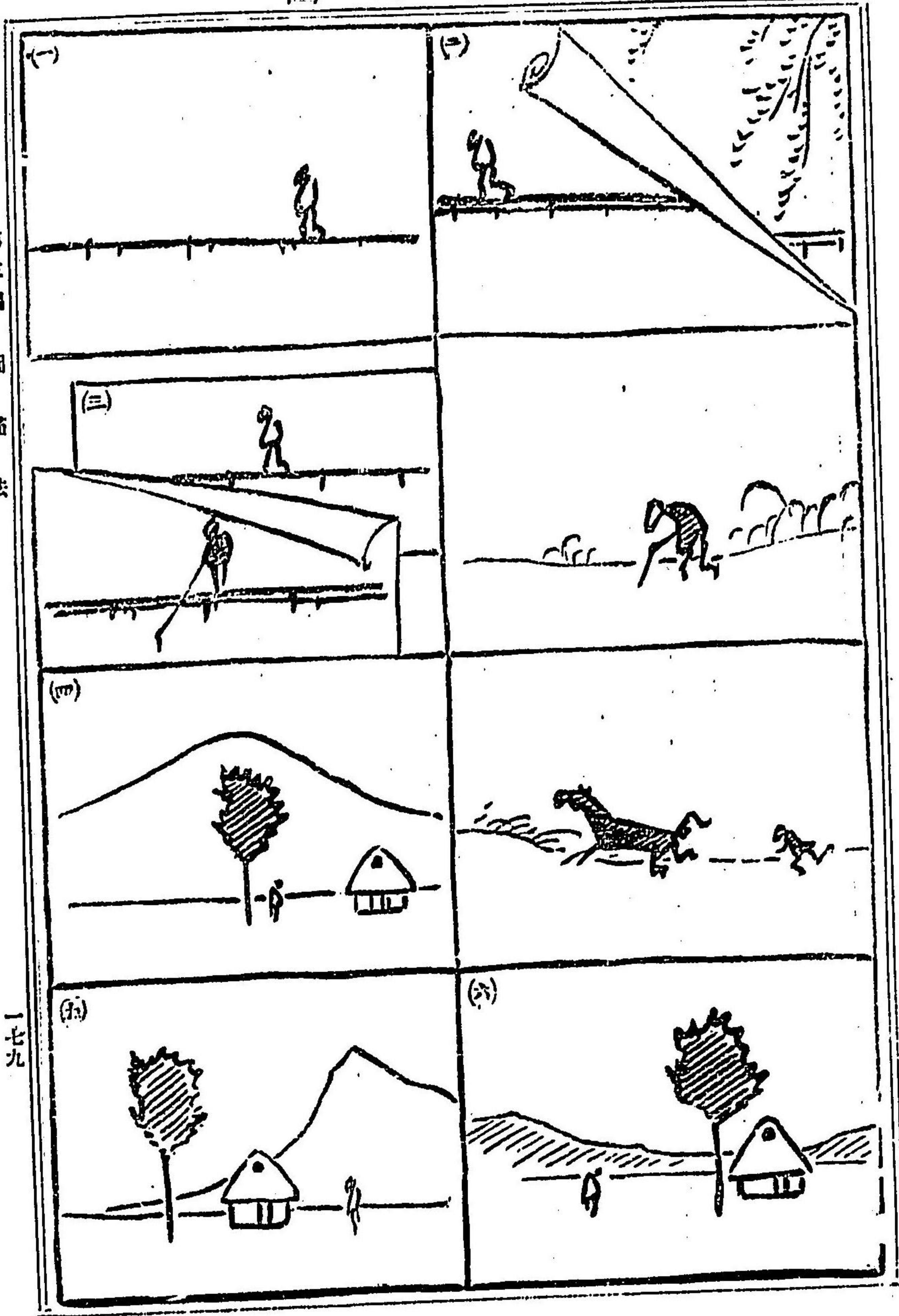
一七七

第 百 一 圖

配[□] 合[□](其二) これは、土瓶と茶碗一個との、非列を研究した結果で、其數は實に澤山あるが、爰には、十五圖を撰んだ。其上欄の三圖は適當なもので、下欄の十二圖は、不適當なものを示したのである。勿論其中に甲乙はあるけれども、上欄の中で左のと中央のとは普通であるが、右のは一寸面白く感ずるのである。即土瓶が茶碗を顧眄せる趣は、親が子を顧みる如き情が見えて居る。配合のことは、考ふれば考ふる程、興味多き事であるが、彼の純自然の寫生を以て能事了れりとなすものには、此邊の消息は、解し得られないであらう。

一七六

圖 二 百 第



第三編 圖 畫 法

一七九

第 百 二 圖

作 畫

入が橋を渡る所を描けとの題を課して、三種を得たとする。即第一は、人物が橋のたもとにあつて、其進行先きが、廣く残されたもの。第二は、其進行先きが、殆ど全く残されないもの。第三は人物が橋の中央部にあるものである。今此等を、此儘で判定するならば自分は第一のみを取るであらう。けれども、第二の後部に、垂柳の枝を描き加ふるとか、第三の人物をして繪を垂るものとしたならば、全く捨つべきものではない。それで兒童の成績を訂正する時の如きは、大に此點に注意しなければならぬ。

次に一の樹木・家屋・人物及山等を結合するとき(四)は、俱に不適當で(六)は、先づ適當な一例である。(四)に於ては樹木と山の頂とが畫面の中央部に相重疊し、(五)は樹木と山とが、兩々相對峙して、家屋が圖を中斷するの思ひがある。これ等は要するに繪りが不自然からよくない。重荷を負へる人や、老人の歩める路傍の草は、其方向へ軽く曲り、奔馬の鬃は、前方から強く靡かせる。甲は平和の配合で、照應式と云ひ、乙は力強き配合で、反對式といふ。描題により此兩式何れかに據り、又其中間式に據るべきことは、恰も色の配合の如くである。

一七八

第六 素圖及運筆

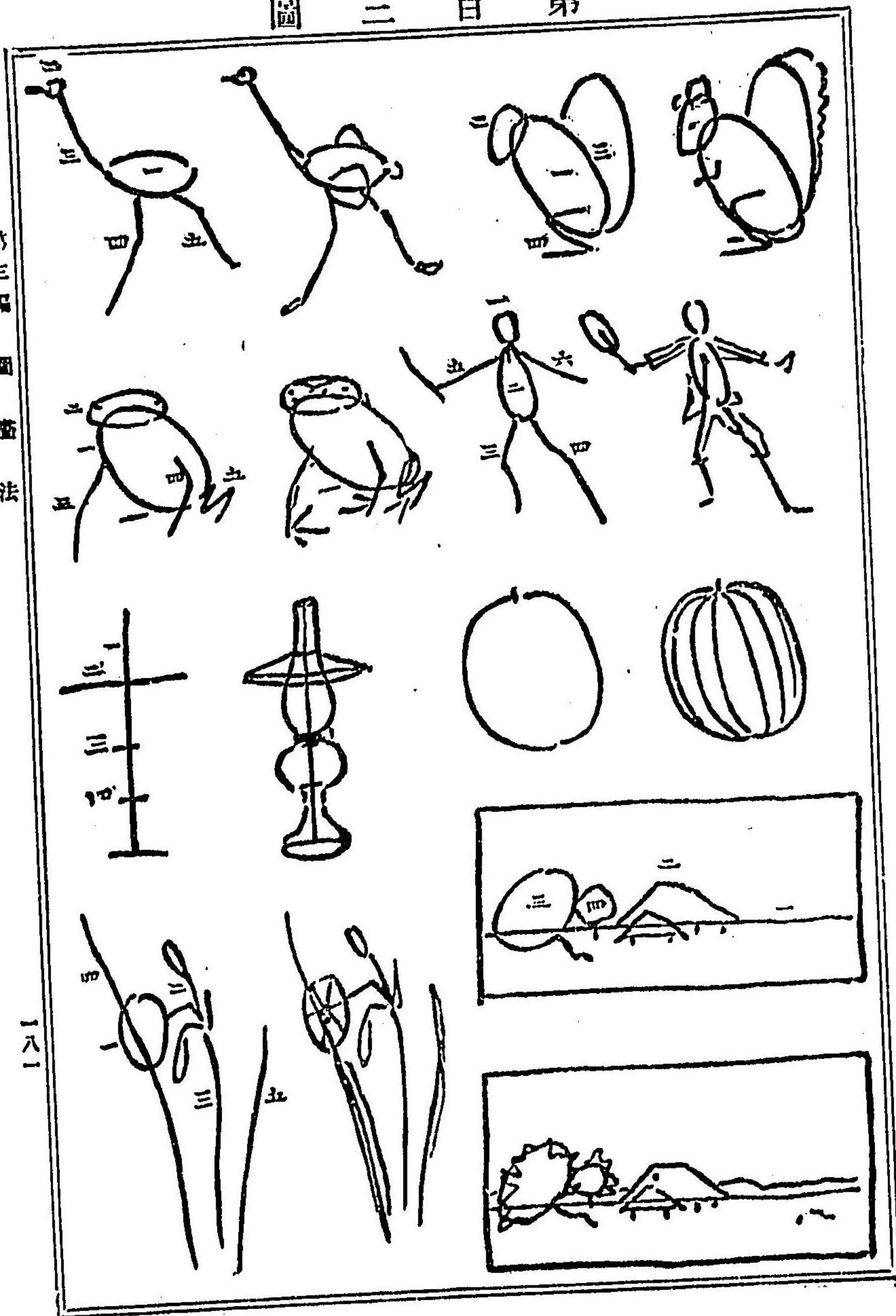
第三百三圖

素圖 略畫は、素圖、即、下圖を取ることをなしに、筆をつけて描くのであるが、稍筆数の多きものか、又下圖なしに描くことの、出来ぬものは、鉛筆又は、木炭で素圖を定むべきである。これは自分で其形や結構が、充分であると認め得る迄は、幾回となく、訂正修補するのがよい。其順序は大抵大體より部分に及ぼすのである。鉛筆ならば極めて軽く使用して、消去しないでもよい様に、又木炭ならば、容易に掃ひ得る程にするのである。

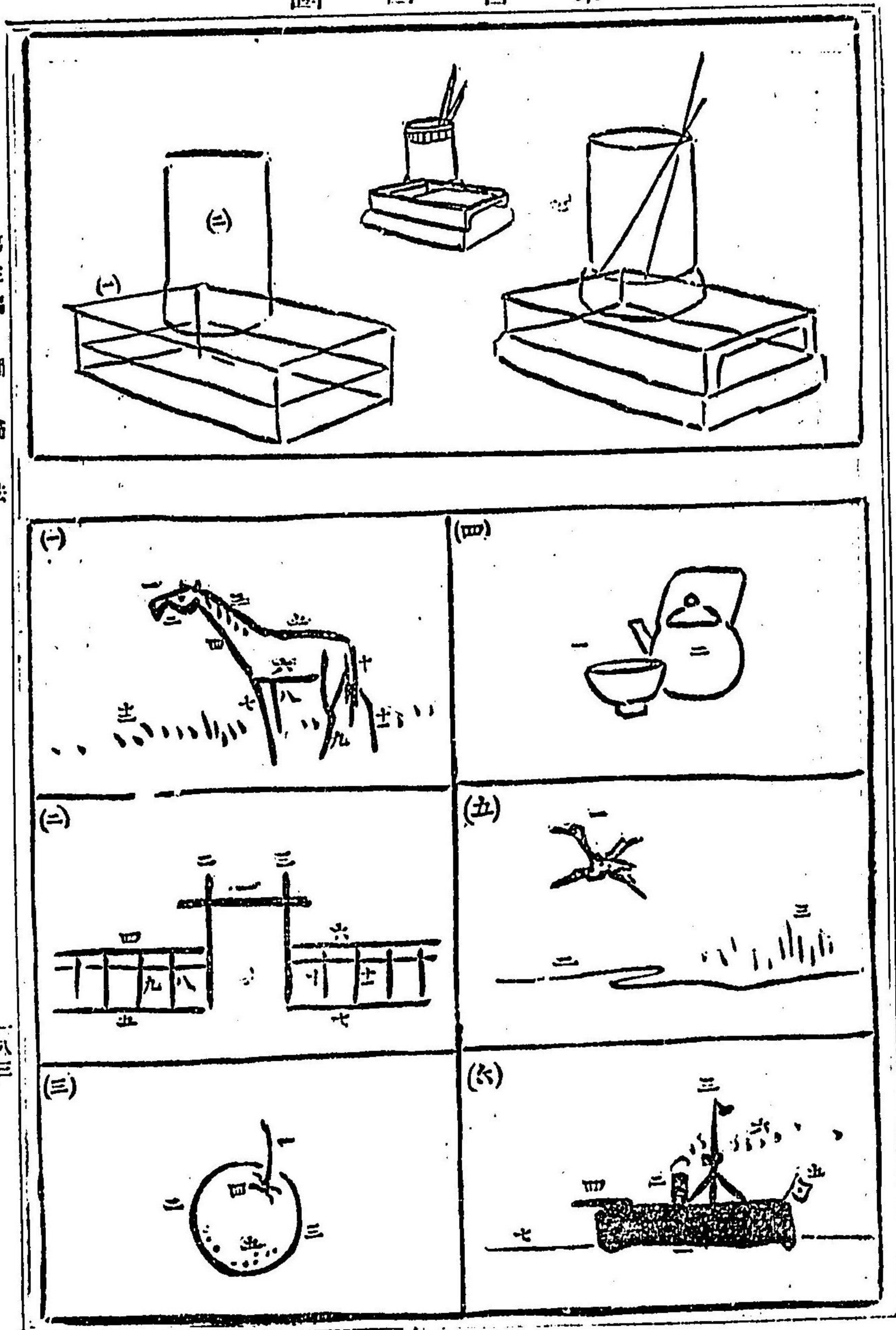
素圖の順序は、一様でない、動物は、胴部若しくは頭部よりし、又全体を包圍する或る直線若しくは曲線形を以て、始まることもある。花卉は、其主部たる花よりして、枝葉に及ぼし、器具例へば洋燈の如きは、其高さを定め、其線上に各部の寸法を分割して描き、景色に於ては地平線を最初にし、其上に家屋、樹木等の位置を配するが如くて、要は概形より、漸次細部に及ぼすことなのである。看取又は寫生に於ける素圖の順序も、これと同様である。

尚、素圖に就て注意すべきことは、後方にあるものが前方にあるものの爲めに、其幾分を蔽はれる場合には、務めて後部の全部を下取りし、相互の位置の關係、及形、線等の斷續に於て、透算がない様にせねばならぬ。

第三百三圖



第 百 四 圖



第三編 圖 畫 法

一八三

第 百 四 圖

運筆順序 畧書若しくは略畫の一種なる塗板畫などでは、前項に述べた素圖の必要を認めないが、其代りに、運筆順序を一々考案せなければならぬ。

- (一) 畫は、左方上部より、漸次右方下部に及ぼすこと。
- (二) 左右相稱の形は、必ず左を先にし、右を後にすべきこと。
- (三) 主線を先にし、補線を後にすべきこと。
- (四) 自分に近きものを先にし、漸次遠きに及ぼすべきこと。
- (五) 主を先にし、客を後にすべきこと。
- (六) 全體の形を定むるに、便宜な所から始むべきこと。

尙、主にしても客の後方に在ることあり、馬が首を垂るる場合など、種々あるであらうが、一々これに應ずる順序を示すことは出来なから、よくよく上の六個條を咀嚼して、便宜所決しなければならぬ。以上は初學者の爲めに述べたるので、大に練習を経た人には釋迦に説法の類かも知れぬ。

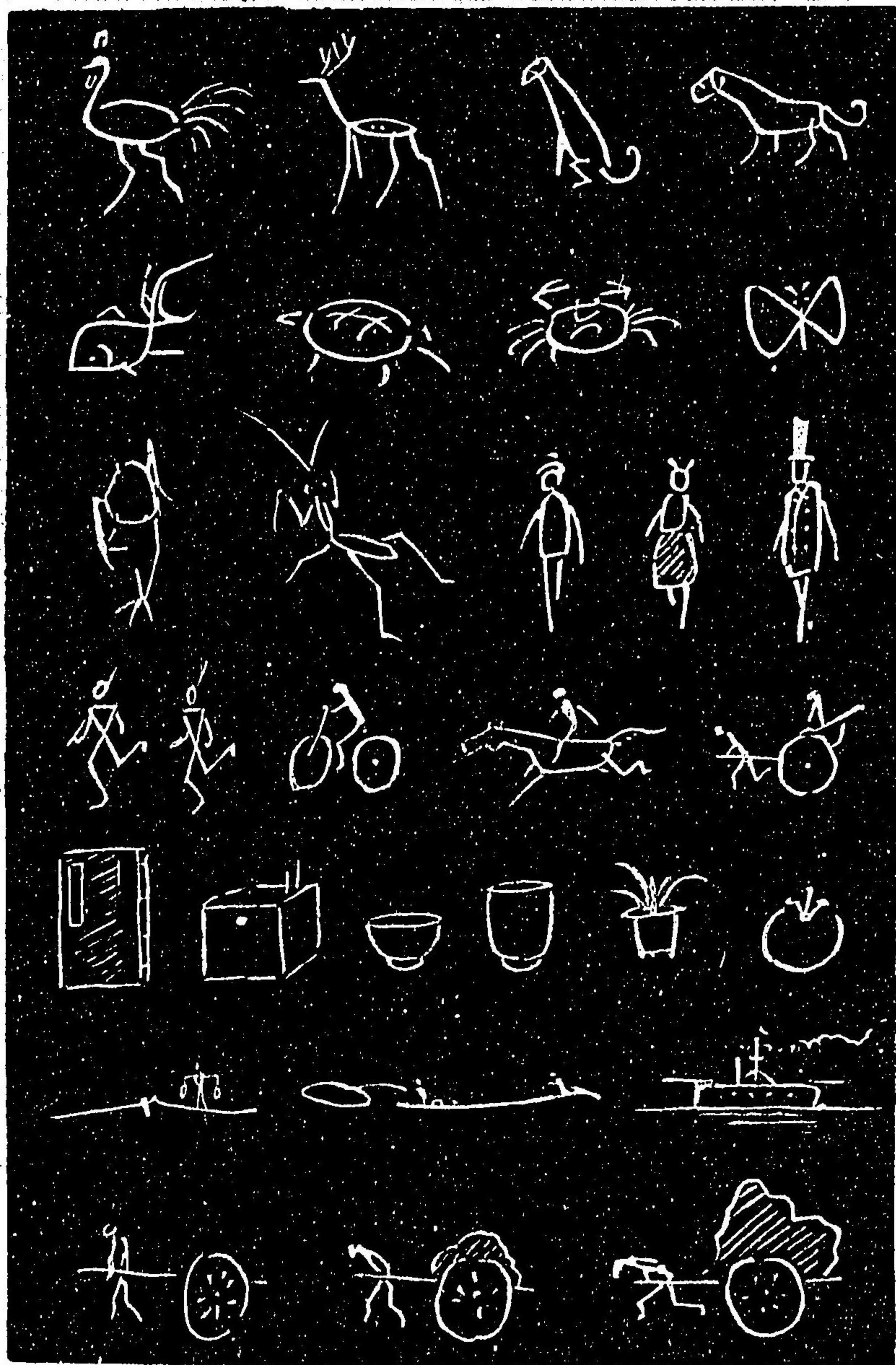
一八二

第四編 塗板書

第五百圖

塗板書に就て 如何なる書でもこれを塗板の上に描けば、塗板書なのである。それで、塗板書といふものは、墨繪とか、水彩書とか、又油繪といふものに對して、門戸を張る程のものでなく、又別種の手訣を要しないものである、といふことは明瞭であらう。つまり米國新英倫地方の小學校教師が巧に書を諸科教授の上に利用し、其描くことの容易なるは、實に驚くの外ないとのことであるが、我が國でも、頃日圖書を教授上に利用することは、印象を確實にするのみでなく、其授業を容易に、且、愉快にするものである、といふ様な所から、塗板書といふことを、喧しく唱ふる様になつた。所が、米國の小學校教師特に尋常科の教師は、必ず圖書の嚴正なる檢定を経なければならぬことになつて居るから、圖書の素養が充分にあつて、塗板上に略畫を描く位のことには、容易であるが、我が國は、少し事情を異にして居る所から、此際速成の塗板書習修の法を講じなければならぬ様な次第である。自分は四五年来、略畫法の研究をなし、各所の講習會で、供給した材料が集まつて、遂に本書となつたのであるから、本書に蒐録したものは、直に塗板書の獨習模本となり、又材料となるのであらうと信ずる。本圖以下に示す所の多くは、既に前願のものを再録して、唯其線描、塗描及色描の例を示したるに過ぎないのである。

第五百圖

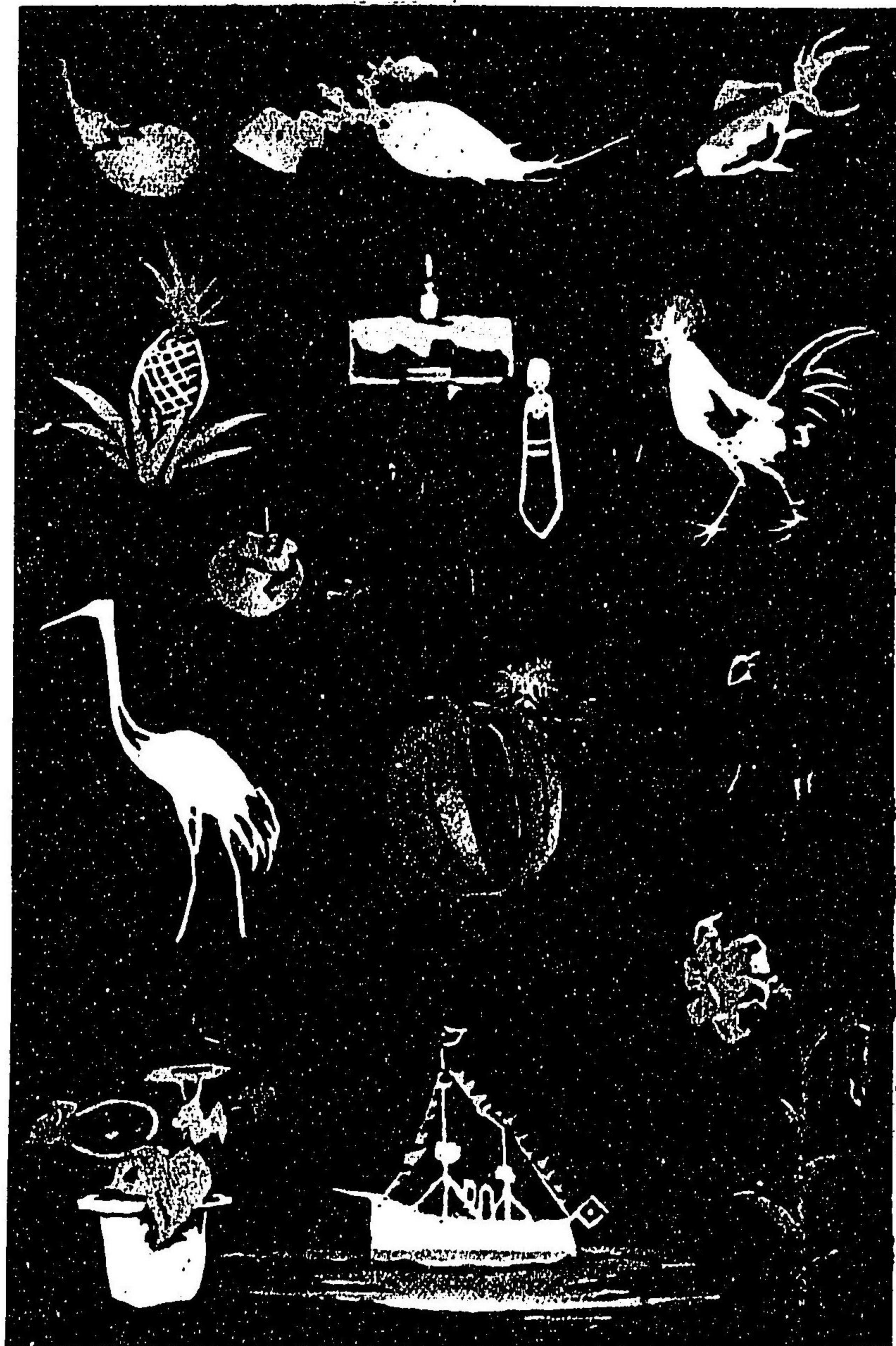


第百七圖

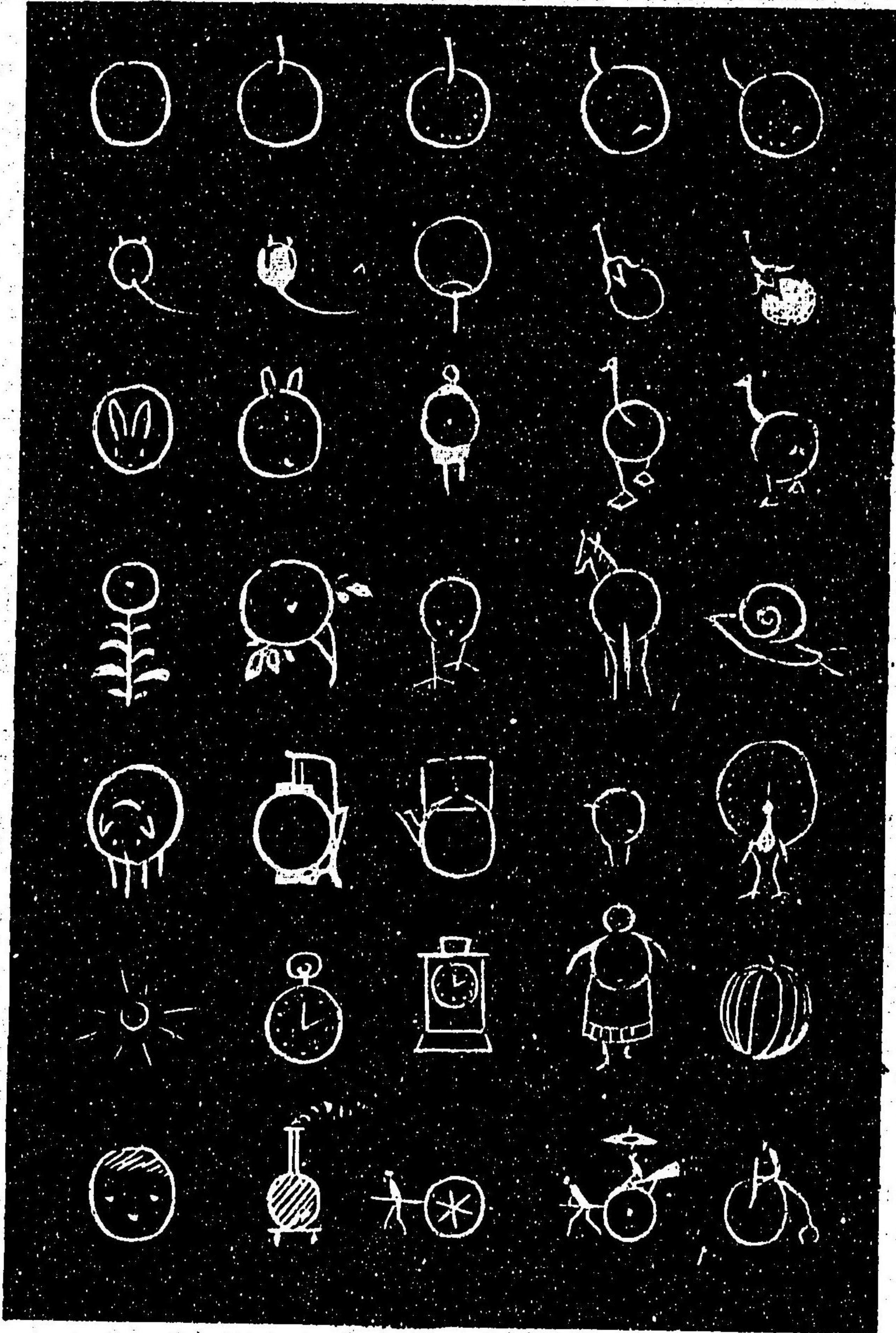
塗板上描畫の注意(其二) 塗板畫は成るべく色墨筆を使用するのがよい。

- (一) 自然物外のもものは、餘色の配彩をすべきもので、即地圖とか解剖圖とか、又人物の衣服の如きは、各部各物を明瞭にする爲め、是非反對の意味なる二色を、相隣せしむべきである。
- (二) 自然物は到底限りある色墨筆を以て、相當の色彩を與へ難いから、便宜近似色を用ひてよ。
- (三) 多種の色を有するものは、始めに白墨筆で、其總てを描き、後に色墨筆で、色彩するのである。
- (四) 色墨筆は、板面に於て其塗抹を重ね、或は色線を交叉して、往々見事な第三色を得ることがある。

圖七百第



圖八百第



第一百八圖

塗板書の練習 塗板書は部門別に練習するのが便利であらうと思ふが、又其類似形を撰んで其轉化する有様を練習するのも面白いであらうと思ふ。て本圖は、丸圓か球か楕圓か楕球か若しくは卵形か卵球かの應用變化を試みたのであるが、彼の數多の團子を描いてこれを計算せしめ、時にこれを林檎に、又茄子に、又水鳥に轉化して其教授を繼續するならば、教授を活潑に、且有効ならしむることが出来るであらうと思ふ。

斯くして直線・三角形・正方形・立方體・圓柱・圓錐及此等の類似形の應用を試みたならば、宇宙間の總てのものは、此等數個の幾何形體の内に包含せらるることを了解するであらう。

第 百 九 圖



第四編 繪板 圖

一九三

第 百 九 圖

省略描法に就て 兒童を無二の侶とする人々よ、自今は諸君が如上の略畫を練習すると同時に、讀本其他諸教科書雜誌に、挿まれてある畫を透寫し、又は臨摸し進んで、其省略描法を試み、彼のち伽話の如きは、自ら其繪を構成し得る様に至ることを切望する。

本圖は、例の龜と兎との話及び最新伽話の略畫を試みに描いたのである。

一九二

附記

- 鉛筆 EAGLE H BBB 色鉛筆
- 消ゴム 紙和洋紙・膠水引紙
- 硯及墨 毛筆・線描筆・面相筆
- 筆洗
- 繪具 繪具皿 繪刷毛 紙製畫板 留紙 兩脚規 三角定規 二 尺度
- (備考) 用具販賣店 東京市京橋區日吉町 白石硯海堂 同日本橋區萬町 中村繪樓
- 東京市寺町通押小路下 森親子商會 同六角通廣小路 堤中金華堂 同寺町通丸太町 辻本錦華堂

一 繪水引紙の製法

水一合半に膠一匁を溶かし生明礬末三分を投じ之れを白布にて漉し冷えて後、刷毛にて紙の表に塗り室内に牽張せる緒に掛け乾かすこと普通二回乾きたるものには少し霧吹きを施し平板に挟み重量を加へ置くべし。

圖畫之新趣味終

明明明明明明明明
治治治治治治治治
四四三三三三三三三
十十十十十十十十
一一九九九八八八八
年年年年年年年年
五五十三三三六五五
月月月月月月月月
十五二六三十一十
五 八五二
日日日日日日日日
訂訂訂訂訂訂訂訂
正正正正正正正正
五五四四參參再再
版版版版版版版版
發行發行發行發行
行行行行行行行行

圖畫之新趣味
定價金九拾錢

著者 竹内次郎

發行者 上原才一

發行所 光風館書店

著者 矢島一三



大賣所

東京市神田區表神保町
同 日本橋區數寄屋町
大阪市東區備後町四丁目
京都市上京區寺町通下町
名古屋市中區三丁目
熊本市新町二丁目

東京堂書店
吉平文庫
松岡次郎
川瀬代助

久留米市米屋町
鹿兒島市中町
金澤市片町
仙臺市大町五丁目
長崎市大門町
松本市水町二丁目

菊田幸兵衛
吉田源平
宇都宮之助
藤崎喜太郎
西澤美書店
高美書店

陸軍教授 安東伊三次郎君著 ▲口繪(動物)才ホオニバス(植物) ▼

生物界之現象

別製美本全貳冊
正價金壹圓參拾五錢
小包郵稅金拾五錢

△動物篇 訂正十七版(正價金七拾錢) △植物篇 訂正十六版(正價金八拾錢)

發刊以來非常の好評を博して重版又重版其の發賣高は實に三萬部以上に達せり、以て本書が學界を裨益せることの偉大なるを知るべく、如何に價値ある純良の著なるかを知るべし、嘗て『日本新聞』は本書を評して『安東氏の生物界之現象は中々面白い、其書き方は綜合的方法と記述的方法とを合せたので挿圖は非常に多い。先づ人類以下の主要の動物を箇々に説かれ、夫れから機關・生理・進化等を説いた順序が如何にもよい』(動物)云々といひ、『國民新聞』は、『兎に角乾燥ならんとする博物學に一種の興味を加へる分つて葉莖及根、花及葉實となしたる傍、植物全體を區別して、日用植物・用材植物・飲食料食物・藥用有毒植物・染料植物となしたるは新しき分類にして、殊に植物性バクテリアの一章を設く。動物篇と同じく學理と實地とに重きを置き、趣味あり興味あり』(植物)云々といへり。蓋し何人も一讀を要すべきこと、米の飯が吾人に缺くべからざるが如けんなり。

『大阪教育會報』評 萬有學に關する最新の學說と實驗とを網羅し來り、動植二學に由りて無上の趣味と實益とを讀者界に向ひて惜げなく紹介し盡すものを本書とす。『瓜々の聲』婦人の消息をなす『二錢及四錢の空氣中にて早く死せる』『雞の鳴の雄に化す』と『我國特有の動物』花は何によりて昆虫を招くか、『竹は木なりや草なりや』『マラリヤ病は蚊によりて傳染すること』等本書に滿載せる好原目を一瞥せば誰か之を披閱せずして止まんや宜なる哉、新著の新著たる此の二冊が己に拾數版を重ねたること、殊に事例を吾が邦人の耳目に近きもの例せばアサガホの人工受精に就て安田氏の實驗を挙げ奇なる食品に就て李鴻章の支那的行動を引けるなどは趣味津々として盡きざるものなり。

清國 湖北省武昌府 三澤力太郎君著

自然物之利用

訂正五版
正價金七拾餘錢

教育の效果の擧がらざるは學問と實際との親密ならざるにあり。國家の富強を圖らるには生産的事業の進歩發達を期せざるべからず、やがては最新の學理を實際に應用して効果を容めざるべからず、本書は即ち此の要求に應ぜんとするもの、教育家及び實業家が必讀を要する斬新精良の一著なり。

第一編 空中に存在する物質の利用 一 酸素 効用及利用 二 硝化作用と酸素 空中の酸素を利用して酸素を製する法 三 窒素 効用 四 空中の窒素より肥料を製すること 五 空中の窒素が窒素化合物に變ずる場合 六 液體空氣及び其利用 七 液體空氣の製造 八 液體空氣の保存 九 液體空氣の性質及び其利用 十 空中に存在するオゾンの性質及び其効用 十一 五炭酸瓦斯と植物營養との關係 十二 六空中のアンモニア及び其利用 十三 七空中に存在する硫黃化合物の動植物に及ぼす影響 十四 八 空氣中の新元素 九 結論

第二編 地中に存在する物質の利用 一 有機礦物の利用 二 金剛石の利用 三 石炭及び琥珀の利用 四 石油 五 石灰 六 石膏 七 硝石 八 硫磺 九 燐石 十 矽石 十一 雲母 十二 輝石 十三 角閃石 十四 綠泥石 十五 蛭石 十六 沸石 十七 螢石 十八 重晶石 十九 石膏 二十 白雲石 二十一 螢石 二十二 螢石 二十三 螢石 二十四 螢石 二十五 螢石 二十六 螢石 二十七 螢石 二十八 螢石 二十九 螢石 三十 螢石 三十一 螢石 三十二 螢石 三十三 螢石 三十四 螢石 三十五 螢石 三十六 螢石 三十七 螢石 三十八 螢石 三十九 螢石 四十 螢石 四十一 螢石 四十二 螢石 四十三 螢石 四十四 螢石 四十五 螢石 四十六 螢石 四十七 螢石 四十八 螢石 四十九 螢石 五十 螢石 五十一 螢石 五十二 螢石 五十三 螢石 五十四 螢石 五十五 螢石 五十六 螢石 五十七 螢石 五十八 螢石 五十九 螢石 六十 螢石 六十一 螢石 六十二 螢石 六十三 螢石 六十四 螢石 六十五 螢石 六十六 螢石 六十七 螢石 六十八 螢石 六十九 螢石 七十 螢石 七十一 螢石 七十二 螢石 七十三 螢石 七十四 螢石 七十五 螢石 七十六 螢石 七十七 螢石 七十八 螢石 七十九 螢石 八十 螢石 八十一 螢石 八十二 螢石 八十三 螢石 八十四 螢石 八十五 螢石 八十六 螢石 八十七 螢石 八十八 螢石 八十九 螢石 九十 螢石 九十一 螢石 九十二 螢石 九十三 螢石 九十四 螢石 九十五 螢石 九十六 螢石 九十七 螢石 九十八 螢石 九十九 螢石 一百 螢石

附說一 粘土工業 一 總論 二 粘土 三 天候と粘土との關係 四 粘土の成分 五 粘土の成分 六 粘土の成分 七 粘土の成分 八 粘土の成分 九 粘土の成分 十 粘土の成分 十一 粘土の成分 十二 粘土の成分 十三 粘土の成分 十四 粘土の成分 十五 粘土の成分 十六 粘土の成分 十七 粘土の成分 十八 粘土の成分 十九 粘土の成分 二十 粘土の成分 二十一 粘土の成分 二十二 粘土の成分 二十三 粘土の成分 二十四 粘土の成分 二十五 粘土の成分 二十六 粘土の成分 二十七 粘土の成分 二十八 粘土の成分 二十九 粘土の成分 三十 粘土の成分 三十一 粘土の成分 三十二 粘土の成分 三十三 粘土の成分 三十四 粘土の成分 三十五 粘土の成分 三十六 粘土の成分 三十七 粘土の成分 三十八 粘土の成分 三十九 粘土の成分 四十 粘土の成分 四十一 粘土の成分 四十二 粘土の成分 四十三 粘土の成分 四十四 粘土の成分 四十五 粘土の成分 四十六 粘土の成分 四十七 粘土の成分 四十八 粘土の成分 四十九 粘土の成分 五十 粘土の成分 五十一 粘土の成分 五十二 粘土の成分 五十三 粘土の成分 五十四 粘土の成分 五十五 粘土の成分 五十六 粘土の成分 五十七 粘土の成分 五十八 粘土の成分 五十九 粘土の成分 六十 粘土の成分 六十一 粘土の成分 六十二 粘土の成分 六十三 粘土の成分 六十四 粘土の成分 六十五 粘土の成分 六十六 粘土の成分 六十七 粘土の成分 六十八 粘土の成分 六十九 粘土の成分 七十 粘土の成分 七十一 粘土の成分 七十二 粘土の成分 七十三 粘土の成分 七十四 粘土の成分 七十五 粘土の成分 七十六 粘土の成分 七十七 粘土の成分 七十八 粘土の成分 七十九 粘土の成分 八十 粘土の成分 八十一 粘土の成分 八十二 粘土の成分 八十三 粘土の成分 八十四 粘土の成分 八十五 粘土の成分 八十六 粘土の成分 八十七 粘土の成分 八十八 粘土の成分 八十九 粘土の成分 九十 粘土の成分 九十一 粘土の成分 九十二 粘土の成分 九十三 粘土の成分 九十四 粘土の成分 九十五 粘土の成分 九十六 粘土の成分 九十七 粘土の成分 九十八 粘土の成分 九十九 粘土の成分 一百 粘土の成分

附說二 染色法 一 色素の沿革 二 染色術總論 三 直接染料法 四 直接染料法 五 直接染料法 六 直接染料法 七 直接染料法 八 直接染料法 九 直接染料法 十 直接染料法 十一 直接染料法 十二 直接染料法 十三 直接染料法 十四 直接染料法 十五 直接染料法 十六 直接染料法 十七 直接染料法 十八 直接染料法 十九 直接染料法 二十 直接染料法 二十一 直接染料法 二十二 直接染料法 二十三 直接染料法 二十四 直接染料法 二十五 直接染料法 二十六 直接染料法 二十七 直接染料法 二十八 直接染料法 二十九 直接染料法 三十 直接染料法 三十一 直接染料法 三十二 直接染料法 三十三 直接染料法 三十四 直接染料法 三十五 直接染料法 三十六 直接染料法 三十七 直接染料法 三十八 直接染料法 三十九 直接染料法 四十 直接染料法 四十一 直接染料法 四十二 直接染料法 四十三 直接染料法 四十四 直接染料法 四十五 直接染料法 四十六 直接染料法 四十七 直接染料法 四十八 直接染料法 四十九 直接染料法 五十 直接染料法 五十一 直接染料法 五十二 直接染料法 五十三 直接染料法 五十四 直接染料法 五十五 直接染料法 五十六 直接染料法 五十七 直接染料法 五十八 直接染料法 五十九 直接染料法 六十 直接染料法 六十一 直接染料法 六十二 直接染料法 六十三 直接染料法 六十四 直接染料法 六十五 直接染料法 六十六 直接染料法 六十七 直接染料法 六十八 直接染料法 六十九 直接染料法 七十 直接染料法 七十一 直接染料法 七十二 直接染料法 七十三 直接染料法 七十四 直接染料法 七十五 直接染料法 七十六 直接染料法 七十七 直接染料法 七十八 直接染料法 七十九 直接染料法 八十 直接染料法 八十一 直接染料法 八十二 直接染料法 八十三 直接染料法 八十四 直接染料法 八十五 直接染料法 八十六 直接染料法 八十七 直接染料法 八十八 直接染料法 八十九 直接染料法 九十 直接染料法 九十一 直接染料法 九十二 直接染料法 九十三 直接染料法 九十四 直接染料法 九十五 直接染料法 九十六 直接染料法 九十七 直接染料法 九十八 直接染料法 九十九 直接染料法 一百 直接染料法

清國 湖北省武昌府 三澤力太郎君著

自然力之利用

十訂 正 版

洋裝 美本 全壹册
口拾 着色圖 附電氣學
正別 五葉 押圖 八拾餘個
郵價 金 六 拾 餘 圓
稅 金 八 拾 餘 圓

本書は自然の勢力及び利用を説明せんが爲め、日常目撃する所のあらゆる諸機械の作用並に其の由りて起りたる次第を明かにし、以て近世理學の進歩が如何に自然力を利用するに至りたるかを懇切周到に解説したるものなり。其の斬新なる夥多の挿圖は明快なる説明と相俟りて、本書の價値を重からしめたり。

容 内 る な 富 豊

- 第一篇 流動する物體の有するエネルギーの利用
 - 一 空気が水の流動する所以
 - 二 流動する液體の有する壓力
 - 三 流水の速度
 - 四 水力發動機
 - 五 水車
 - 六 チュルビン
 - 七 一般の利用
 - 八 五噴水器
 - 九 通風噴水器
 - 一〇 消火用水器
 - 一一 自動噴水器
 - 一二 六風力の利用
 - 一三 風及帆船
 - 一四 風車
 - 一五 七停止せる風氣の壓力を利用する機
 - 一六 水揚ポンプ
 - 一七 消火用水ポンプ
 - 一八 液體の壓力傳播性を利用したる機
- 第二篇 太陽輻射線の利用
 - 一 輻射線の種類
 - 二 輻射線とエネルギーとの關係
 - 三 二重遠鏡
 - 四 構造及光線の徑路
 - 五 倍率
 - 六 種類
 - 七 接眼レンズと對物レンズとの間に二個の相等しい凸レンズを加へたるもの
 - 八 雙眼鏡
 - 九 ニュートン望遠鏡
 - 一〇 望遠鏡の構造
 - 一一 望遠鏡の倍率
 - 一二 望遠鏡の放大
 - 一三 望遠鏡の活動
 - 一四 望遠鏡の明視距離
 - 一五 倍率
 - 一六 ニュートン望遠鏡の構造
 - 一七 望遠鏡の用途
 - 一八 望遠鏡の歴史
 - 一九 望遠鏡の製造
 - 二〇 望遠鏡の修理
 - 二一 望遠鏡の保存
 - 二二 望遠鏡の注意
 - 二三 望遠鏡の故障
 - 二四 望遠鏡の改良
 - 二五 望遠鏡の最新式
 - 二六 望遠鏡の最新式
 - 二七 望遠鏡の最新式
 - 二八 望遠鏡の最新式
 - 二九 望遠鏡の最新式
 - 三〇 望遠鏡の最新式
- 第三篇 蒸氣力の利用
 - 一 蒸氣力の起源
 - 二 蒸氣機關の由來
 - 三 蒸氣機關の種類
 - 四 蒸氣機關の構造
 - 五 蒸氣機關の原理
 - 六 蒸氣機關の用途
 - 七 蒸氣機關の歴史
 - 八 蒸氣機關の製造
 - 九 蒸氣機關の修理
 - 一〇 蒸氣機關の保存
 - 一一 蒸氣機關の注意
 - 一二 蒸氣機關の故障
 - 一三 蒸氣機關の改良
 - 一四 蒸氣機關の最新式
 - 一五 蒸氣機關の最新式
 - 一六 蒸氣機關の最新式
 - 一七 蒸氣機關の最新式
 - 一八 蒸氣機關の最新式
 - 一九 蒸氣機關の最新式
 - 二〇 蒸氣機關の最新式
 - 二一 蒸氣機關の最新式
 - 二二 蒸氣機關の最新式
 - 二三 蒸氣機關の最新式
 - 二四 蒸氣機關の最新式
 - 二五 蒸氣機關の最新式
 - 二六 蒸氣機關の最新式
 - 二七 蒸氣機關の最新式
 - 二八 蒸氣機關の最新式
 - 二九 蒸氣機關の最新式
 - 三〇 蒸氣機關の最新式
- 第四篇 化學的エネルギーの利用
 - 一 電池の由來
 - 二 電池の種類
 - 三 電池の構造
 - 四 電池の原理
 - 五 電池の用途
 - 六 電池の歴史
 - 七 電池の製造
 - 八 電池の修理
 - 九 電池の保存
 - 一〇 電池の注意
 - 一一 電池の故障
 - 一二 電池の改良
 - 一三 電池の最新式
 - 一四 電池の最新式
 - 一五 電池の最新式
 - 一六 電池の最新式
 - 一七 電池の最新式
 - 一八 電池の最新式
 - 一九 電池の最新式
 - 二〇 電池の最新式
 - 二一 電池の最新式
 - 二二 電池の最新式
 - 二三 電池の最新式
 - 二四 電池の最新式
 - 二五 電池の最新式
 - 二六 電池の最新式
 - 二七 電池の最新式
 - 二八 電池の最新式
 - 二九 電池の最新式
 - 三〇 電池の最新式

清國 湖北省武昌府 三澤力太郎君著

天界之現象

九訂 正 版

上製 美本 全壹册
口拾 着色圖 附電氣學
正別 五葉 押圖 八拾餘個
郵價 金 六 拾 餘 圓
稅 金 八 拾 餘 圓

本書は宇宙の現象中吾人に多大の興味を興ふるもの、總てを網羅して、最近に於ける吾が地球上の人類が到達したる智識中其の人生に最も關係深き事項を解説したるものなり。...

而も絶大にして宏壯なる天界を叙述するに平易明快なる文章と精巧緻密なる壹百有餘の挿圖を以てす。若し夫れ一度本書を繙かんもの、身は忽ち天外に飛んで絶宏絶大なる宇宙を領し無限界の趣味を心のまゝに味ふ事を得んか、願くは一讀を賜へ。今本會に對する江湖の評言を左に掲ぐ。...

●「萬朝報」評 第一編は主として太陽と月とを説き、其の密度、光熱力及諸種の現象、變遷の理を明かにし、第二編には太陽系の諸遊星を説明し、第三編には彗星及び星流の軌道、數、現象を詳し、第四編には宇宙の大觀を叙し、第五編には天文學上の術語、天體觀測器、曆、測定法等を説明し、一々圖解寫真を挿入して其説明を助く、文章に流麗なく叙述體を得て甚だ高遠に走らず、又淺薄に流れず、吾人は少なくも我小説「被天荒」を愛讀したる讀者に對して此書を讀まんことを勧告す。人は時として俗を離れ、宇宙天體の絶大にして、宏壯なるを味ふの極めて風流にして、愉快なるものなればなり。

●「日本新聞」評 曩きに出版されたる「自然界之現象」「生物界之現象」等に引き續き發行せられたるものにして、最近天文學書に據り今日の天文學が到達し得たる智識中、興味ある事項を簡明に説述したるものなり、著者は此種の著書に充分の經驗あることとて編述の秩序體裁最も宜しきを得たるが故に、斯學に宜なるものも一度之を讀めば忽ちにして小天文學者なるを得べし。加之著者は天界の現象に特殊の興趣を感ずるもの、如く、天文研究を以て會に理學上の事となさずして、人類思想の上に偉大の影響あるものと認めたるが如きは面白き見識といふべし、唯其記述の筆の往々所期に反して科學的乾燥に陥らんとする傾あるは惜むべき事なれど、美麗巧緻なる挿圖を多數に挿入したれば、以て其缺を補ふに足る、教育ある紳士の家庭には是非一本を備ふる事を要す。

東京理科大学 教授 坪井正五郎先生序
前編 大鳥居奔三君著

人類界之現象

訂正 九版

上製英本全壹册
口拾色圖「土人風俗」壹册
期拾色圖「土人風俗」壹册
定圖拾色圖「土人風俗」壹册
小包郵金拾錢

嗟呼「人類界の現象」は是れ豈に絶好の問題ならずや、然り吾人は人として先づ吾人人類の研究を忽諾に附すべからざるを知る。抑も人とは何ぞ、恐らくは斯の問題に對して最も満足に解決を與へたるものは本書を措て他にこれなかるべし。

然り此の書は主観客觀兩様より人類界の現象を觀察して、人間の實質・眞價を盡すに於て間然する所なし、我が邦現時の思潮の青年少壯者を過り、延ては將來永遠に世道人心を害ふの懼れある時、一般の社會が此の書に對して深厚なる注意を拂はんことを欲するなり。

健全なる人間觀を作らしむべく効力ある書

「太陽」評

人として、自己の何たるかを知らざるはと思はるはなし。此故に希臘の古賢も「汝自身を知れ」と戒めたり。此自身を知る云ふことは、畢竟人間の何たるかを究むるに歸す。然るに世上、人間の何たるかを一括して傳ふる書籍なり。固より宗教又は哲學の教理は別問題に屬す。人類學と云ひ、心理學と云ひ、皆これ人間性の一部面を教ふと雖も、未だ人間の全性質を記載せず。著者茲に見る所あり人間全體の性質を傳へむと欲して此書を編めり。

而して書籍の程度は尋常師範學校位なりと雖も記する所は多方面に亘れり、蓋しこれ著者が後年研究の便概なるべし。章を分つて精論、人間の身體、人間の精神、人間の活動、人間の種類、人間の起源及發達、人間社會、人類と自然となし、彩色石版刷、寫眞版圖等十二枚を挿み別に木版數十圖を入れて説明す。文章亦平易なれば如何なる人と雖も、二讀の下に人間の特性に關する要旨を捕捉し得べし。且つ、殊に近來青年間に不健なる人生觀の行はるる今日、吾人は此書が健全なる人間觀を作らしむる上に於て、効力多かるべしと信ず。

東京理科大学 教授 飯島 魁先生校閱
前編 故千野哲次君著

自然之教訓

訂正 六版

上製英本全壹册
口拾色圖「自然の美」壹册
期拾色圖「自然の美」壹册
定圖拾色圖「自然の美」壹册
小包郵金拾錢

人生問題の解決、を自然界に求め得て新福音を傳ふるものは即ち本書なり。只この領域無味なる科學にして其の情

味を拘すべく趣味津津たるものならしめ、以て樂天的人生觀を解決せり。嘗て

精神修養的科學 書なりとの好評を博せしむべきなりといふべく、其の生物界の諸法則を文字上より叙述し來り

宗教上より道徳したる所、やがて是れ大自然の聖原をうち開き其の美其の妙を最も精細明瞭に説明したる宗教的人生

科學書なりといふべし。おれば更に進んで讀者をして宇宙の眞相は美と妙との極致なるを徹見せしめ、以て

金剛の信心 と無限の安心を獲得せしめんことを期したるもの、而も引例豊富、行文流麗、所説釋當にして深く人

生、宗教の秘秘を聞き得たるに至りては未だ嘗て見ざる所なり。然りこれ著者が現世に於ける唯一の著述にして瀟

の心血を注げるもの、人生に多大の

默示と裨益 とを與へたるものなり、志ある教育家、學生は勿論、宗教家、文學家、美術家其の他人生問題の解決

に苦しむ者「理學的根據ある信仰」を求めんとする者、かれて「自然の美妙」を味はんとする者は速に一讀すべきな

り。見るべし、我が理科書中別に一異彩を放てることな。然り、而して

精神教育に應用 したる博物學の深味が如何に傾倒すべくして多くの價值を有せるかを。且つや斯學の泰斗飯島

博士の校閱が所請論上に花を添えて一冊の眞價を發揮せるか。

十二世紀科學叢書
中に一異彩を放てるを見るべし

長野縣松本女子師範學校校長 矢澤米三郎君 前東京府師範學校教諭 澤田劍義君共著

昆虫生態學

五増版訂

上製英本全壹册
口給着色圖「せみ」壹張
正別圖四葉挿圖百貳拾餘個
郵價金八拾錢

目次の概

第一章 池沼篇	地上に飛翔する昆蟲：水面に生活せる昆蟲：水面に休息し水中を潛行する昆蟲：水中に休息せる昆蟲	(自一—至七〇頁)
第二章 溪流篇	急流の石下に生活せる昆蟲：急流の側しき所に生活せる昆蟲：急流の近傍に生活せる昆蟲：夜の昆蟲	(自七一—至九六頁)
第三章 果園篇	樹葉を害する昆蟲：樹葉を捕食する昆蟲：果實を捕食する昆蟲	(自九七—至一〇七頁)
第四章 森林篇	樹葉を食する幼虫：樹幹を捕食する昆蟲：樹林に生活せる種類昆蟲	(自一〇八—至一四〇頁)
第五章 路傍篇	樹葉を食する幼虫：樹幹を捕食する昆蟲：樹林に生活せる種類昆蟲	(自一四一—至一八三頁)
第六章 圃場篇	菜園の昆蟲：桑園の昆蟲：稲田の昆蟲	(自一八四—至二〇七頁)
第七章 室内篇	有害なる昆蟲：美聲愛すべき昆蟲	(自二〇八—至二一九頁)
附録	昆蟲分類表	(自二一九—至二五五頁)

二百二十六頁、版百二十一を挿入し、池沼、溪流、果園、森林、路傍、圃場、室内の七篇に分ち、更に之を細別して平易の昆蟲の生態、研究の方法等を記述せるものにて、其内容は、カムストツク氏のインセクトライフに類するを見る。而して第四版の口給には初版の口給の群飛に代ふるに奇麗なる蝶類八種の彩色圖を以てせり。

「信濃博物學雜誌」評 本書の價値は既に定評あり茲に贅するを要せず、今更に圃場篇、室内篇を加へ新に二十餘種挿圖を増し、又吾人が渴望せる菜園も加へ、蠅の種及種類をも説明し、終りに昆蟲分類表を掲げたる如き殆ど遺憾なきに至り。

「日本之小學教師」評 第四版發行に際し大に増補修正して、又新に圃場篇、室内篇の二篇を加へ、附録として昆蟲分類表を掲げたり、乾燥無味なりし博物學が、生體的な研究によりて多大の興味を喚起して、昆蟲界の發展に大なる進歩を見るに至りしは喜ぶべし、此の書は、總ての昆蟲に就き野外研究、室内研究の二つに分ち、百二十餘の挿圖により説明を加へたるもの、著者等の斬新なる學識と經驗とを會得すべく、自然界に於ける研究科目として最も興味あるものといふべし。

「萬朝報」評 著者は一般動物學者の如く、單に其外形、性質、利害等を記載するを以て足りたりせず、更に其幽玄なる所以を解せしめんとし、且つ其生活状態の一般を伺ふに足るべく、又人生階級の倫理的關係に着想すべく、又幽微なる美的感情を操作するを得べし。

北海道小樽中學校教諭 山田文太郎君著

一日之化學界

九訂版正

上製英本全壹册
口給彩色圖「朝」一冊
正別圖貳貳張挿圖「朝」一冊
郵價金六拾五錢

朝起きてより夜寝に就くまでの間、吾人の眼界に入る事物中、其の化學的變化に關する卑近なる現象に就き、詳細に而も懇切に説明指導せるもの、行文流暢平易にして一種の趣味を帯び夫の深遠高尚なる化學上の學理を物に對し事に應じて最も明快に説示したれば、如何なる初學の人にも一讀以て最近化學の妙味を領得し得らるべし。されば日用化學の一斑を知るべく何人も一讀せざる可らざるの良書なり。

趣味なき化學、趣味ある化學と成る

是は著者が自序にもある通り、朝起きてより夜寝に就く迄の間、吾人の眼前に現はる、階序中其の化學の範圍に屬するものを説明したるものである。即ち、

起床口を嗽ぐ井準の水、炊煙起る所薪木燃ゆ、新鮮の空氣塵を篩ふて入る、瀝濾力に下りて刺刺刺る、食後團圓茶を吸りて睡す、一炊の煙草に小休を賦む、急に消炭を添へて活火に復す、机頭常に備ふ紙と墨汁、紫紅顏を競ふ前庭の花(色葉)、花陰驚き聞く午砲の轟くを(火藥)、牛肉は鶏卵を加へて益美なり、灰汁の効何んぞ石鹼に譲らんや、玻璃窓外の煉瓦石、人は藁中にありて肥料を施す、浸潤を防ぐはセメントにあり、仰ぎ見る半空烟火の懸るを、偶と信書の撮影を添ふるに會ふ、封筒の糊は友情の濃きに似たり、陶器瓶裏一粟の花、清香沁も香水を撒すに似たり、菓子を出して器の波金に及ぶ、夕景を愛して舌を流酒に較す、日落ちて燈光樹間に閃き、映を照す、烟火は花影を映す。

是れ其の原目のみ、敘述簡明平易、言文一致體を以てす、著者が趣味なき化學を趣味ある間に讀者に會得せしめんと企てたる其の着想や宜し其の勇や多とすべきである、吾人は家庭の好讀物、小學校理科教授の參考書として喜んで江湖に紹介する次第である。

「教育實験界」批評

長野縣松本女子師範學校校長 矢澤米三郎君 前東京府師範學校校長 澤田劔義君 共著

昆虫生態學

五増版訂

上製美本全壹冊
口給着色圖「せみ」壹葉
正別圖四葉挿圖百貳拾餘個
郵價 金 八 拾
稅 金 拾

目次の概

第一章 池沼篇	地上に飛翔する昆蟲：水面に生活せる昆蟲：水面に休息し水中を潜行する昆蟲：水中に休息せる昆蟲	(自一—至七〇頁)
第二章 溪流篇	急流の石下に生活せる昆蟲：急流の側し所に生活せる昆蟲：急流の近傍に生活せる昆蟲：夜の昆蟲	(自七一—至九六頁)
第三章 果園篇	樹葉を食する昆蟲：樹葉を捕食する昆蟲：果實を捕食する昆蟲	(自九七—至一〇七頁)
第四章 森林篇	樹葉を食する幼虫：樹幹を食する昆蟲：樹林に生活せる種類昆蟲	(自一〇八—至一四〇頁)
第五章 路傍篇	蝶及其幼虫：蜜蜂・蜂蟻・蟻：蜘蛛類	(自一四一—至一八三頁)
第六章 園場篇	菜園の昆蟲：桑園の昆蟲：稻田の昆蟲	(自一八四—至二〇七頁)
第七章 室内篇	有害なる昆蟲：美聲愛すべき昆蟲	(自二〇八—至二一九頁)
附録	昆虫分類表	(自二一九—至二五五頁)

「昆虫生態學」評 矢澤米三郎、澤田劔義兩氏の合著にして明治三十六年七月初版を公にし目下第四版を發行したるが、紙數二百二十六頁、圖版百二十一を挿入し、池沼、溪流、果園、森林、路傍、園場、室内の七篇に分ち、更に之を細別して平易の昆蟲の生態研究の方法等を記述せるものにて、其内容は、カムストツク氏のインセクトライフに類するを見る。而して第四版の口給には初版の口給の群飛に代ふるに奇麗なる蟬類八種の彩色圖を以てせり。

「信濃博物學雜誌」評 本書の價値は既に定評あり茲に於けるを要せず、今更に園場篇、室内篇を加へ新に二十餘種新種圖を増し、又吾人が渴望せる蟬類を加へ、蟬の發育及種類をも説明し、更に昆蟲分類表を掲げたる如き殆ど遺憾なきに至れり。

「日本之小學教師」評 第四版發行に際し大に増補修正して、又新に園場篇、室内篇の二篇を加へ、附録として昆蟲分類表を掲げたり、乾燥無味なりし博物學が生態的研究によりて多大の興味を喚起して、昆蟲界の發展に大なる進歩を見るに至りしは喜ぶべし、此の書は總ての昆蟲に就き野外研究、室内研究の二つに分ち、百二十餘の挿圖により説明を加へたるもの、著者等の斬新なる認識と經驗とを會得すべく、自然界に於ける研究科目として最も趣味あるものといふべし。

「萬朝報」評 著者は一般動物學者の如く、單に其外形、性質、利害等を記載するを以て足りりとせず、更に其幽玄なる所以を解得せしめんことを期せしもの、如し此等の生態を研究し更に進んで自然界に於ける淘汰の法則に論及せば、宇宙間に於ける複雑なる萬有生活状態の一般を何ふに足るべく、又人生階級の倫理的關係に聯想すべく、又幽微なる美的感情を振作するを得べし。

北海道小樽中學校教諭 山田文太郎君著

一日之化學界

九訂版正

上製美本全壹冊
口給彩色圖「せみ」壹葉
正別圖四葉挿圖百貳拾餘個
郵價 金 八 拾
稅 金 拾

朝起きてより夜寝に就くまでの間、吾人の眼界に入る事物中、其の化學的變化に關する卑近なる現象に就き、詳細に而も懇切に説明指導せるもの、行文流暢平易にして一種の趣味を帯び夫の深遠高尚なる化學上の學理を物に對し事に應じて最も明快に説示したれば、如何なる初學の人にも一讀以て最近化學の妙味を領得し得らるべし。されば日用化學の一斑を知るべく何人も一讀せざる可らざるの良書なり。

趣味なき化學、趣味ある化學と成る

是は著者が自序にもある通り、朝起きてより夜寝に就く迄の間、吾人の眼前に現はるる諸作中其の化學の範圍に屬するものを説明したるものである。即ち、

起床口を嗽ぐ井の水、炊煙起る所薪木燃ゆ、新鮮の空氣塵を掃ふて入る、瀝掃方に了りて朝露到る、食後團圓茶を啜りて睡す、一吹の煙草に小休を試む、急に消炭を添へて活火に復す、机頭常に備ふ紙と墨汁、紫紅糊を競ふ前庭の花(色菜)、花陰露を聞く午砲の轟くを(火藥)、牛肉は鰯卵を加へて益美なり、灰汁の効何んぞ石鹼に類らんや、玻璃窓外の煉瓦石、人は街中において肥料を施す、浸潤を防ぐはセメントにあり、仰ぎ見る牛空烟火の懸るを、偶々信書の影を添ふるに會ふ、封筒の糊は友情の濃きに似たり、陶器瓶裏一菜の花、清香宛も香水を撒すに似たり、菓子を出して器の渡金に及ぶ、夕景を愛して舌を流酒に敲す、日暮ちて燈光樹間に閃き、襖を照す、煙火は花影を映す。

是れ其の原目のみ、叙述簡明平易、言文一致體を以てす、著者が趣味なき化學を趣味ある間に讀者に會得せしめんことを企てる其の着想や宜し其の勇々多とすべきである、吾人け家庭の好讀物、小學校理科教授の參考書として喜んで江湖に紹介する次第である。

「教育實驗界」批評

前長野縣師範學校講師 河西 璞君 著

小學理化教授之設備及注意

三訂正 上製美本全壹冊
正價金七拾五錢
郵税金拾錢

内容の梗概

國民教育に於ける理化學の價值漸く認識せられ其設備の完らんことを期するの聲は今やエーテルの夫れの如く到る所に滿ち亘りつゝあり。これ必然のことにして理學思想の普及發達は文明の消長……やがて國家の消長に至大の關係を有することを知らば一日も忽緒に附す可らざるなり、而も實驗と標本とは理化教授の骨子なり、即ち本書は器械・器具・藥品・標本其他の設備品を擧げ、之に關する注意及び教授上の注意、取扱及び保存上の注意、整頓、整理、洗滌法、實驗に關する注意等に涉り、百數十項に分ちて之を解説したるもの良く明確懇篤を極めたり。蓋し教育家の机上には不可缺の良著なり。

世評の一斑

日本 曰く 久しく師範學校に設備を執りつゝありし河西氏が、自己の教案に要約して教授に必要な器具、器械、標本、藥品、材料を摘録し數軒有名の商店に問ふて之が概價を付し、一々に就いて氣付かれたる事柄を備考欄に記入し、之が自作、代用、其他一般其事に關する注意、生徒に對する各般の注意、設備品の取扱、保存、整理、修繕、實驗其他に關する零碎なる注意、必要手工法の一並及び氏が過去十年間經驗の跋を列記し、之を印行して生徒に頒らしものを廣くして美觀なる冊子となし發行せしものなり、理化學に志ある者は坐右缺くべからざるは勿論なるべし。

中央新聞 曰く 項を設備、品目、代價、設備に關する注意、生徒に應むの注意、雜注意の四篇に分ち第一篇には器械、器具、藥品、標本、圖表類を摘録し概價を付し、第二篇には理化教授用教室の事其他設備に關する各種の注意を列記し、第三篇には生徒に對する各般の注意を列記し、第四篇には器械器具及藥品の取扱保存に關する注意より實驗廢物利用等に關する注意を細大洩らさず詳述したれば全國町村各當事者に取つて一讀を要すべき好參考書也。

日本之小學教師曰く 本書は設備品目代價、設備に關する注意、生徒に應むの注意、雜注意の四篇に大別して理化教授に關する實施方法を綿密に説きたり。理化の眞價値を得しめんとする教員には其參考書といふべし。

東京高等師範學校教授 上原六四郎先生序
日本體育會花原中學校教頭 高島平三郎先生序
中村國穂君 共著
伊東珍平君

手工科之理論及實際

四訂正 上製美本全壹冊
正價金四百拾五錢
郵税金拾錢

手工科の理論 には於ては感覺機官の習練、教科の應用、勞作教育、工業思想の發展等に關聯して多くの意を用ひ、手工科の意義及び價値を論じて教授時間、教材の撰擇及び排列より一般の設備、教授上の注意、他教科との聯絡等に至る迄、最も懇切に是を詳述し、附するに精細なる教授細目表を以てせり、而も其の理論は實驗より歸納したるものなるが故に極めて實際的にして價値ある見解を有せり。

手工科の實際 には於ては之を分ちて色板並べ、棒並べ及積木、豆細工、粘土細工、紐結、切附細工、押繪、折紙細工、厚紙細工、糊細工、編物、縫取、造花、機織、紙摺及び製本、麥稈細工、竹細工、木細工、金細工、の十八章となし、更に三百十餘項に分ち、四百有餘の挿圖により頗る丁寧懇切に説明を加へたり。又其の材料・用具の如きは勉めて簡易のものを撰み、教材は全篇を通じて兒童に興味多かるものを選びたり。若し夫れ

本書の價値 に至りては、手工科講習會用書として、且は各府縣師範學校の手工科參考用書として採用され、早くも第四版を發行するに至りしを見て了知すべきなり。

高知縣師範學校教諭 竹内次郎君著

圖畫之新趣味

五訂版正

和裝上製美木金裝册
郵正 刷石版圖拾七
價 千六百有餘
稅 金 八拾
錢 圓葉

著者が多年の研究に成れる手腕と抱負とを親しく教壇に起ちて實際に経験すること拾餘年、幾多の工夫を積み考案せる斬新の著述なり。

第一章 圖畫の初歩教授 には其の教授の方針及び方案を述べ、自由略畫の教授、簡題、練習、批評、臨模、應用、補寫、習取及び速寫、測圖、透寫及び伸縮、工夫畫及び用器畫法等を詳説し、自然界に兒童を誘致すること、美術作品に接せしむることに及び一々著者の實驗により懇篤詳細に是れを述べしむる。

第二章 略畫法 には於ては鳥獸、魚介、昆蟲、人物、器具、果實及び野菜、花卉及び樹石、橋、船、車、建築物及び山水景色等實に畫千四百有餘の挿圖によりて、其の姿勢、描法、構図を説き、側面、正面、背面の畫法を示して、濃淡法、描寫法、濃淡筆染法、等に至る迄最明快に解説せり。其の圖の輕妙奇抜にして神にせまれること、及び何人にも直に其真趣を味ひ得て、運筆の自在を得せしむる。とは實に本書の特點にして價值ある所なり。

第三章 圖畫法 には於ては測圖、透寫及び伸縮、工夫畫、配色、配合及作圖、素描及び速筆の六章に分ち、二百有餘の模範圖を挿み、運筆の順序より畫法を説き、色彩圖によりて配色、配合を附き懇切に述べたり。

第四篇 塗板畫 には於ては、塗板畫に就て、塗板上描畫の注意、塗板畫の練習、書略畫法に就ての四章に亘り圖によりて説述せり。

「教育時論」曰く 本書の特色は略畫法をもしたるにあり。其鳥獸、蟲魚、山川、草木、器具、人物、船舶、建築物を描ける所、一見人をして案を叩かしむるものあり、而して其變化の多様、豊富にして面白く、前より描けるもの、後より寫せるもの、右よりせるもの、左よりせるもの、立つものあり、走るものあり、飛ぶものあり、眠るものあり、坐するものあり、行くものあり、止るものあり、這方なり、近きあり、遠きあり、千態百狀、文章のよく形容し得る所にあらず、若し一度、斯かる材料を兒童に供せんか、彼等は終日描くこと、尙ほ飽きざらん、且又其の描筆法も各部門につき、一々根本的に説明しあれば、初學者と雖も、了解し難からず、著者の意、我が邦家、學校に於ける圖畫的技藝、趣味の缺如を救はんとするにありと、吾等は本書が、盛に世に用ゐられて、やがて著者の意を満足するものあるを信じて疑はざるなり。

東京帝國大學 教授 坪井正五郎先生序 田寺寛二君著

MAN and APES.

人

と

猿

三訂版正

洋裝美木金裝册
郵正 刷石版圖拾七
價 千六百有餘
稅 金 八拾
錢 圓葉

通俗理科書の刊行を望みて本書を歓迎す

丘博士の「進化と人生」に出て、問もなく、こゝにまた此面白き書出てたり。本書も進化論の見地によれるもの、如きも全篇の目的人と猿との比較研究をなし、以て人類が自然に於ける地位を知らしめんとせる者なるべし。木組の組織の大要を説くれば、精論と本論とに分ち、論の比擬は人猿の根本より他の動物と異なるか、人は獸類の一なり、人は猿類と共ニ猿類に属する等の數項目にて人と他の動物との關係を説き、本論は人猿の分類、人猿の起源の三章に分ち、更に幾多の猿類に分説せり。文學上の書と異り、一々確切的の事實を實驗に基き説明したるものなれば、教育學、教授法等の書を讀み分れたるもの、眼には、まことに珍らしく面白く感ぜられたり。殊に第二章、人猿の比較中第三節心理上の比較は殊に面白く、一萬千里の勢を以て讀み過したる、理論の所に文章の面白く感ぜられたり。節もあれども、大體に圖面も多く説明も丁寧なれば、通俗理科書として普通人の讀むに可なり。通俗理科書の刊行を希望する吾人は、殊に本書を歓迎するものなり。専門家の見地よりせる詳細の如きは吾人の知る所にあらず。

現代の社會が相當の尊敬を拂ふべきの書

進化論の我國に紹介せられてより二十餘年、今や口に筆にこれを唱へざるはなきに至れり。斯の如きは誠に賀すべき現象なるに相違なしと雖も其獲得したる内容に至つては頗る感すべきもの少からず。或は進化の概念すら明確ならざるに似たり、果して然らばダーウキン説と進化論とを混同して平然たる何ぞ怪しむに足らん、斯かる社會に最も且必要にして効果あるは何人も了解せらるべき通俗的著書に若くならん。光風館近時の事業の如き能くこの要求に應じたるもの、精論にして叙述の順序を示し、本論は章を分つて三となし、始めに人猿を分類し、次に生理學、解剖學、心理學よりして兩者の比較を試み、進んで人類の起源に論及し、人は猿の一種にして其祖先を同じうするとの結論に至り、行方解して現代の社會が相當の尊敬を拂ふべき由を見ざるべし。本書は必ずしも、創見を含有するものにあらず、されど其泰西學者の研究を忠實に記述したる點に於て優る。

吾人は如何にして現在の吾人となりしか

人とは如何なるものぞ、人は始めより人なりしや。人と猿とは如何にして分れしや。人は何故に尾を失ひしや。人は何故に直立するに至りしや。人は何故に體毛を失ひしや。現今も尙有尾人あり、毛人あるを知らずや。獸へ來れば疑問百出其類に堪えざらん。左れど一度本書を讀みれば、疑問は直に解決さるべく、斬新なる挿圖と痛快なる興味とは其眼前に披露せられんなり。……「發行所附頁」

文科大學教授 桑木巖翼先生序
 文學博士 木村猪久次先生序
 前編編輯中學 修驗師 澤田順次郎君 共著
 大鳥居奔三君 共著

婦人論

再訂版正

洋裝美本全壹册
 刷寫真本全壹册
 密繪圖五拾
 色金五拾
 正金八拾
 郵稅金

△試みに問はん……婦人問題の現状は如何。 社會の進歩と婦人との關係は如何。 婦人問題は如何に研究すべきか。 婦人問題は如何に解決すべきか。 將來に於ける婦人の地位は如何。 男女兩性の社會的關係は如何。……

△重ねて問はん……婦人の特殊生理とは何ぞや。 月經と生殖機能の關係を知れりや。 月經と婦人の能力との關係は如何。 妊娠及び分娩の經過は如何。 乳房と生殖器との關係は如何。……

△尙更に問はん……婦人の特長とは如何。 婦人の修養は如何すべき。 婦人の本務とは如何。 婦人の職業は如何にすべきか。 男子は如何なる女子を欲するか。 女子は如何なる男子を欲するか。 女子と肉體美との關係は如何。 男女は等權なるべきか。……

嗚呼、列舉し來れば婦人に關する重要問題の如何に多くして、研究すべきもの、如何に夥多なるよ、見よ、婦人論は是等數十の緊要問題を捉へて明快なる解説を與へ、現代の社會に新生命ある慰藉と默示とを頒たんとするもの、著者獨特の快筆は精細に深刻に眞摯に明晰に紙上に躍出せり。……

而して附録とせる『社會的色情衛生論』は又最も注目し値するものとして、讀書界を聳動しつゝあり。今其の梗概を掲げんか。曰く、……

男女の交接不能——男女の生殖不能——交接の不道——生殖不道——妊娠中に於ける母の性行——亂交及び手淫の害——手淫の防遏法——花柳病の傳播及び防遏法——妊娠の不其及び其の影響——人間の生殖と情緒及び愛情。……

等其の他數十項に亘り、極めて穩健に着實に説論し警告し、以て解決を與へたり。……

男女之研究

帝國理學博士 坪井正五郎先生序
 醫學博士 遠藤 正先生序
 前編編輯中學 修驗師 澤田順次郎君 共著
 大鳥居奔三君 共著

増補 十二版

洋裝美本全壹册
 刷寫真本全壹册
 密繪圖五拾
 色金五拾
 正金八拾
 郵稅金

1 第十版の紀念として新に「性愛論」の一編を加へたり。其概く所は愉快適切而も懇篤にしてよく酒酒たる時流を救ふに足る。是れ眞摯なる科學的研究に基き高き理想の下に男女を研究したるもの、人として男も女も必ず一讀すべき必要ある真著なり。其記述する所男女の起源、發達、生殖上の差異及び諸現象、發生、發育、形質上の差異、生活上の差異等頗る精細懇切を極めたり。進んでは男女の地位關係より婦人問題社會問題に及び相俚に生活する社會の根本たる男女に就き最痛快に其解決を與へたり。而も著者が流麗なる筆に健全なる思想の下に最も精實穩健に其絶てを研究して青春者流に大なる満足な與へんことを期せり。……

2 現に貧困好癖の弊頗る高く學界に教育界に於て清純なる家庭に愛讀せられて茲に第十一版を發售するの盛運を見るに至れり。……

3 呼是れ既に父母たる者將た又父たり母たりとする者、新家庭を作らんとするものが必ず讀まざる可からざる良書なりや。……

4 △人間及び社會を科學的に研究して、確實穩健なる思想を養成したい。……

5 といふ、著者の希望の一端を現はしたるものは即ち本書である。無味乾燥な理學を生かして、從來空想を逞しうして居た問題を、論理に叶ひ趣味に隨する様に説明すると云ふ事、今日最も必要であることは明かな事實で、本書が非常の好評を博したのも、當然と謂はればなからぬ。此度其十版を公にするに當つて、附録として大鳥居氏の筆になれる「性愛論」を添へられたが、之れも頗る平易適切な興味深い論文である。また理學的の研究の上に多少あきたらぬ節があるが、秋かい題目を最も眞面目に解釋し、堅苦しく成り易い、理論を優美に且つなだらかに説明した手柄は、豈し著者獨特の長所であらう。……

6 「活動の日本」……

7

文學士樋口秀雄君序 文學士徳谷豊之助君序
文學士小山東助君序 文學士内田 旭君著

挿圖 タンテの愛と人の心
畫題 天の愛と地の愛

愛之進化

訂正 洋裝美本全壹冊
三版正 泰西名書四葉入
郵正 税金五拾錢

「愛は天地の一大魔力にして又人生の一大神秘なり。森羅萬象の煥然文を爲す此魔力により、人類社會の生命長しへなるも此神秘に依る。花木の美艷、家庭の和樂、人文の煥發皆是れ愛の顯現にしてその源は天地の根柢にあり。進化の理法に即りて自ら開展するものなり。」云々

とは、これ文學士小山東助君が序文の一端なり。抑も此書は吾が人生の愛を遺憾なく發現せしめ、其愛を各方面より觀察し、愛の要素を説き、愛の歴史を序し、愛の進化を述べて頗る精細、而も穩健着實、筆鋒又鋭利にして痛快を極めたり、蓋し破天荒の快著たるを失はじ。文學士樋口龍峽君は序して曰く、「著者社會學の立場より愛の進化を究め、特に最も熱烈なる男女の愛の現象を捉へ來つて、精細なる學理的な研究を試む。其態度や其學、其研究や學理的にして、世上に流布する間ゆる戀愛論と全く其趣を異にする。特に本章の如き著述の目的が那邊に在るかを示して餘りあり。」云々

さなり、著者は社會學專攻の士にして犀利なる觀察眼を有し、愛の事實に深厚の興味を感じたる結果、現代の思潮に對し鑑みる所あり、敢て此の書を公にせるもの、茲に重ねて小山文學士が序文の一節を引き、本書の價值を示さんか、謂へらく、
「本書の内容は題目の表示する如く進化論的理法を以て愛の事實を説明し、新穎の思想なり、愛の種類を分ち時代の特徵を辨じ、且つ其本質を解剖して近代的情緒なるロマンチックラブの本性を明かにし、最後に實際問題に就て有要なる暗示を垂れたる順序次第を見るに、研究の方法頗る科學的にて、理窟最も明快なり。」云々、以て本書の眞價を知るべし。

米澤武平君 田中 達君 共譯
渡邊龍聖先生校閱 米國神學士 田中 達君 共譯

倫理學提要

訂正 紙製美本全壹冊
五版 正價 金壹圓七拾錢
小包郵税金拾五錢

目次

緒論 第一卷 倫理學の範圍を論ず(自一節至五節)……第二章 倫理學と他の學科との關係を論ず(自一節至十節)……第三章 倫理學の區分を論ず(自一節至六節)……

第一卷 倫理學の範圍を論ず 第一章 概説及び總論(自一節至十一節)……第二章 動機と意向(自一節至十二節)……第三章 倫理學の區分を論ず(自一節至六節)……第四章 行為の進化(自一節至九節)……第五章 道徳的判斷の標準(自一節至十一節)……第六章 道徳的判斷の標準(自一節至十一節)……第七章 道徳的判斷の標準(自一節至十一節)……

第二卷 道徳的標準に關する諸説 第一章 倫理的思想の發達(自一節至七節)……第二章 倫理學說の諸體(自一節至五節)……第三章 倫理學說の諸體(自一節至五節)……第四章 倫理學說の諸體(自一節至五節)……第五章 倫理學說の諸體(自一節至五節)……第六章 倫理學說の諸體(自一節至五節)……第七章 倫理學說の諸體(自一節至五節)……第八章 倫理學說の諸體(自一節至五節)……第九章 倫理學說の諸體(自一節至五節)……第十章 倫理學說の諸體(自一節至五節)……

第三卷 道徳的生活 第一章 社會的單行(自一節至十三節)……第二章 道徳的制度(自一節至五節)……第三章 道徳的制度(自一節至五節)……第四章 個人生活(自一節至十二節)……第五章 個人生活(自一節至十二節)……第六章 道徳病學(自一節至十一節)……第七章 道徳病學(自一節至十一節)……第八章 道徳病學(自一節至十一節)……第九章 道徳病學(自一節至十一節)……第十章 道徳病學(自一節至十一節)……

「倫理學」なるものを論ずるものなり。從來我國には「倫理學」なるものあり。蓋し本書は前述せるが如く原著者が其意を以て作りたるものなれば、平明簡潔、外溢せざるも、下層に於ては「エニア」へより、益々此の種の「倫理學」中に見る快文の真骨なり。

東京高等師範學校講師 三矢重松先生 光風館編輯所編

國定讀本 小學語法

訂正 再版

高等科用全四冊
正價 卷一 二 三 各金拾錢
郵稅 各金四錢

小學校の國語科に於ける語法教授は蓋し斯の科の骨髄にして、やがて斯の科の基礎的知識なり。言語には口語にても、文語にても一定の法則あり。是れを語法といふ。人の談話文章を正しく理解するにも、己が考を談話、文章によりて正しく發表するにも、是れに據らざるべからず。此の書は、文部省の高等小學讀本に準據し、各課に就きて其の實例を擧げ名稱定義を示し練習問題を附し、又表を挿みて是を極めて精確に説示したるものなり。然り、小學校には必須にして缺く可らざるの良著なりと信ず、願くはこの好著を逸せざれ。

東京市 幸次郎君新著

害虫圖說附驅除法

訂正 三版

携帶用上製美本全壹冊
口繪夜の和田壹集
正價 金四拾餘錢
郵稅 金四錢

總ての農作物に於ける害虫の名稱・形態・習性より、これが驅除豫防の方法等を列擧し解説せるものなり。其の成虫、幼虫、卵、蛹等は、一々精密なる圖によりて、最も詳細に説示し、驅除豫防法に至りては極めて懇篤精細、器具藥品に至るまで細説せり、而して終りに害虫驅除豫防に關する法令、及び害虫名稱索引を附したり。各府縣の農會、試作研究會、實業補習學校等よりの申込續々として來り好評噴々たり。

注意

この書の特徴は斯道のために特に佐々木博士が親しく校閲せられたること、及び文字文章を平易にし、且つ假名を附して小兒童にも讀み易くしめられたることにある。

寄玉縣女子師範學校長 小島政吉先生校閱

清國直轄省優級師範學校教授 近森出來治君作曲

言文日本唱歌

訂正 再版

洋裝美本全四冊
每章優雅圖畫挿入
正價 各金八錢
郵稅 各金貳錢

音樂唱歌が教育上に大切であることは、今更に改めて言ふまでもないことである。併しながら兒童には兒童相當な歌謡歌曲を挿入して授け、是れを功のなきばかりでなく、却て害を及ぼすことがある。從來のように雅言で作つた歌謡で、學者でなければ分らぬものを見出し、或は知らぬ歌への方が多い。夫れ故小學校の唱歌はどうしても言文一致で最も分りやすくせねばならぬとは從來吾等の主張であつた。本書は實に吾等の主張に適つた唱歌書である。全篇言文一致で分りやすく、而も言文一致の稱もすれば、國の興が、吾等は喜ぶて之が小學校の兒童に推薦すると共に作者の勞を多しとするものである。

長野縣視學 與良熊太郎君編

小學校に於ける話方之理論及實際

訂正 再版

洋裝美本全壹冊
正價 金貳拾錢
郵稅 金四錢

全篇を理論の部と實際の部とに分ち、前者に於ては理論的に話し方の目的、形式、材料、種別等を論じ、後者に於ては實際の傾分に入りて話し方に於ける種々の場合を解説講述せり。尙最後には雜件として注意すべき事柄を擧げたり、小冊子に過ぎざれども配述簡明、話し方研究の忽略に附すべからざる時節柄、教師諸君の好參考書たるべし。

東京早稲田中學校講師 理學士 遠藤又藏君新著

平面三角法講義

三訂版正

上製美本全壹冊
定價金壹圓
郵税金四錢

著者は早稲田中學校及大成中學校の講師として多年教授に起ち錚々の名がある人、就中其の三角法に至りては最も得意とする所にして造詣の深きこと、曩に著されたる「平面三角法教科書」が遍く全國の中學校に採用せられて好評の聲益高く既に十六版に及へるより觀て知らるべし。

而も本書は著者が多年の蘊蓄を披瀝して其の抱負と熱誠とを簡明學生の爲めに講じたるもの、其の「講義振り」たるや、整然として序あり、明晰にして簡潔、懇篤にして明快を極めたり。

されば一度此の書を通りかか、讀者をして、宛も著者が教授にあるかの如き快感を催し、入して然り親しく著者の嚆矢に接するが如く釋然たるものあるべし、著者本書に序して曰く、

「平面三角法講義の世に行はるゝの勝れからず、然れども、概ね問題の解法にして、其以外に參考となるべきもの稀なり。本書は此缺點を補はんとし、卷末に問題集を附したり、(練習中の一節)云々と。解法を示し、卷末に問題集を附したり、(練習中の一節)云々と。以て其内容の一斑を知るべし、蓋し受験者學生は何物も措きても先づ必ず一本書を備へべきの新著なり。

正則備前學校講師 安文學院教授 東野十治郎君新著

幾何學問題講義

三訂版正

洋裝美本全六冊
正價三、五圓各拾貳錢
郵税金各拾五錢

「今まで幾何の書物を見たが、これ位分り易く、記憶し易くして、親切に説明して呉れたのはない」と感謝の辭を添えて學生諸子が團體を以て續々講讀を申込み來りつゝある稀有の眞著なり、然り書名は平凡なれども、内容は卓越して、其解法に革新を興へ一生面を開きたる新著なり。

本書の特色
する五個

- ① 假設と終結と其目を區別し以て題意を最も明瞭に表したること。
- ② 角の呼方を可及的一字を以てし之と一見明瞭ならしめたること。
- ③ 問題の選擇に留意して其の必須のもの、熱てを網羅したること。
- ④ 特に注意すべき問題解法の要點及び心得を各冊に附したること。
- ⑤ 一題毎に必ず正確なる圖を挿入し明快に態爲に脱示したること。

東京高等工業學校教授 牧野啓吾君閱

東京高等工業學校教授 河津七郎君閱

實用簡略計算表

新刊

携帶用入美本全壹冊
正價金四拾錢
郵税金貳錢

著者が會て東京高等工業學校に於て、日常工場にて起る所の問題に就ての計算法を講述せし際、其の計算をなるべく實用的に簡略になさしめんが爲めに、實際に當りて考案せるものを編纂せるものなり。其の工業に關する總ての表を網羅したるは勿論、附するに懇切なる説明を以て、一目にして錯雜せる計算を了し得べからしめ、殊にポケット入の小本として日常就業中披見するに便ならしめたる等は、眞に實用的にして、各種工業學校生徒用書として、又工業家子弟が必ず携帶を要すべき新著なり。

注意 本書發刊せらるゝや直に東京高等工業學校附屬工業補習學校生徒の參考用書として採用せられたり。

日本大學講師 理學士 松村定次郎君新著

三角法難問解義

再訂版正

洋裝美本全壹冊
正價金 四拾錢
郵税金 六錢

頭腦の明晰を以て聞えたる著者、數年來公私の學校に教鞭を採りつゝ、實際に當りて大に考ふる所あり、學生の爲めに此の書を公にす。其の問題の適切なるは言ふ迄もなく、解義の明快懇篤なる等多く獲難きの良書なり。今其の内容の綱目を掲ぐ。

目 綱

- ① 銳角の圓函數…………… ① 直角三角形の解法…………… ① 一般角の圓函數……………
- ② 恒等式の證明(第一)…………… ② 多項式を一項式に化す問題…………… ② 特別なる角の圓函數……………
- ③ 三角函數方程式…………… ③ 極大極小…………… ③ 消去法……………
- ④ 三角形の解法…………… ④ 三角形應用問題…………… ④ 恒等式の證明(第二)……………
- ⑤ 三角函數の性質…………… ⑤ 三角函數の角と邊……………

標榜右の如くにして、問題の數實に二百五十有餘、初も難問中の難問は悉くこれを網羅して解説吟味餘す所なし、而して附録としては明治三十四年度より明治四十年年度に亘れる、官立諸學校の入學試驗問題(三角法)を載せ、學者の參按に供したり。

因數分解法講義

再訂版正

洋裝美本全壹冊
正價金 參拾錢
郵税金 四錢

發行の理由

本書の長所

著者の述懐

代數學に就て學生が最も困難を感ずるものは因數分解法なり。而して又何れの部分に於ても之を要せざる處なし。されど適切なる著書を見ず。是れ本書の發刊を敢てせる所以なり。

著者は多年代數學を専攻し、教授に於ても亦多くの經驗を有するの、世に長者なきを憂ひ、今學生の爲めに本書を公にし、研修の便に供す。其の既く所は最も詳密にして、理論正確、懇篤明晰、學ぶものをして、容易に其の要點を把握せしめんことに務めたるは本書の長所なり。

「されば斯新なる考案に成り、精細にして最も分り易き著者なり」とは此の書が江湖に提供さるゝの時、均しく四邊より起る所の聲なるべし」と、著者は微笑を洩らしつゝありしが、果して大なる反響を呈したり。

東京高等師範 和田猪三郎君編

定量化學講義

秤量篇

新發刊

洋裝美本全壹冊
正價金 參拾錢
郵税金 四錢

見よ、理化學界の潮勢は愈進みて其の精確なる實驗を基礎とし、是れが尋究を根本的に爲さずんば、已まざるの機運に際會せり。然り、從來定性的に止まりしもの、今や進みて定量的となり、是れが基礎たる諸大要素を欲求するの趨勢を顯出するに至れり。されば一日是れが學修に後るれば、終に十年の憾を遺すの悔あるやも計られずといふべし。

蓋し、本書は此の要求に應ぜんが爲めに、斯學に造詣最も深き著者が周密なる注意を以て編せるもの、苟も斯學に志すの士は速に一本を備へ、暇々として進み行く斯界の大勢に後るゝ勿れ。

東京高等工業學校 三守 守先生校閱 辻 覺治郎君新著

ペテル 幾何問題解義

再訂版正

洋裝美本全壹冊
正價金 百七十二錢
郵税金 五拾六錢

ペテルセン氏の原著「幾何學作圖問題解義の方法及び理論」なる書が歐洲各國に譯せられて斯學に裨益を興へたることの如何に大なるかは今更言はず、吾が三守先生が屢に是を邦語に翻譯し公行せられたるもの亦斯道にあるもの、珍重して措かざる所なりとす。蓋し此書により幾何學作圖問題を解くべく準備すべき法則を興へられたればなり。而して本書は、この三守先生の譯書により其總べてを通じ解法を容易ならしめんため、一々其問題を列記し精確なる圖に依りて明快なる解釋を加へ最も懇篤精細を極めたるものなり。されば斯學に志あるものは何物を措きても直に机上に備ふべきの良書なり。

東京物理學協會學校講師 白井傳二郎君著

初等軌跡及作圖

訂正三版

洋裝美本全壹冊
插圖七拾壹個
正價金四拾錢
郵稅金四錢

目次

第一章 緒論……命題……定理の述べ方……定理の對偶、逆、否……必要にして且充分なりといふこと……第貳章 軌跡……點の軌跡……線の軌跡……點の軌跡に關する重要定理……線の軌跡に關する重要定理……橢圓雙曲線拋物線の定義……軌跡の交り……軌跡問題解決法の例……軌跡を實驗的に見出すこと……第參章 作圖題……作圖題の一般の注意……作圖の公法……主なる作圖題……軌跡交截法……問題解決法の例……解析法……問題解決法の例……附 録……雜問題……

特色

著者緒言に序して曰く「本書は中學校課程の程度に於て平面及立體幾何學の軌跡并に作圖題の如何なるものなるかを講述し、以て其解法の則るべきを示したるものなり、而して其證明は成るべく例を卑近に採りて丁寧反覆し、然かも論理は正確嚴密を尙べり」とされば本書は數學を專問に修めらるる學生諸君の好參考書たるは言ふまでもなく、中學校年級より補習科を通じて其他諸學校の入学受験者諸君にとりては確に暗中の光明たるものなり。

東京高等工業學校教授 理學士三守 守先生校閱
東京物理學協會學校講師 東中學校講師 服部春之助君著

物理化學計算法要義

訂正七版

上製美本全壹冊
口給ニウトン背像
正價金九拾二錢
郵稅金六拾二錢

早稻田中學 に入久しく政報を握りて、精進の開えある著者が、世に其書なきを憂ひ、學生諸君の爲めに、多大の熱誠と周到なる用意とを以て、通んで編纂せられたる最新の良著なり。

百聞が一見 にかかざるを知らば、速に書肆の店頭に馳せて本書を索め見るべし。如何に其内容が純良・精細・懇切・明快を極めたるかは、立るに諸君の眼前に現はれん、然り而して其の。

記述の正確 挿圖の精細なる、印刷鮮明、製本堅牢、携帶に便にして、價格の廉なるは本書の特色として、世既に定評ある所なり。蓋し受験者學生が唯一の良師良友なるべし。故を以て茲に諸君に切望す。「先づ速に一木を座右に備へよ」と。

東京物理學協會學校講師 白井傳二郎君著 ▲訂正六版▼

袖數學公式

合本

上製美本全壹冊
正價金拾五錢
郵稅金七錢

最も斬新適切なる考案に成れるものにして、算術・代數・幾何・三角法を通じて其の肝要なる公式の總てを挙げたる精確を極めたり。且つ終りに諸種の表を附して計算に便せる類、著者の用意の周到なるを見るべし。分本は算術・代數・幾何・三角法を各別冊とせるものにして携帶に便なり。一度本書を披見するものは必ず購はざる可らざるの念を生ず」とはこれ讀者の聲なり。蓋し受験者學生にとりては一冊も放つ可らざる最も緊要の良書なり。然り次の理化學公式と相列んで類書中に一頭地を抜き、諸脚の懷裡に入らざるは本書を措て他にこれなかるべし。

東京物理學協會學校講師 白井傳二郎君著 ▲訂正三版▼

物理化學之定則及公式

合本

上製美本全壹冊
正價金拾四錢
郵稅金四錢

物理學に於ける總ての肝要なる定義・定律・公式、化學に於ける重要なる定義・定律・單體及び化合物の製法・分子式・方程式等を挙げ、終りに金屬表・原子量表・週期律表等其他各種の表を附したるものなり。文章の簡潔、用語の嚴格、挿圖の正確なるは本書の特點にして好評を博せる所なり。見よ著者が獨特の經驗より案出せられし此の書が如何に異彩を放てるかを。

◎五大家肖像挿入(ニウトン、シュール、フイゲンズ、ファラデー、ファントホッフ)

東京法科大学 教授法學博士 梅謙次郎先生序文 法政講習會 工藤重義君編

法制讀本

訂正 六版

洋裝美本全壹冊
定價金參拾八錢
郵税金六錢

一般國民をして現行の制度・法規及其の活動を知らしむべく、吾帝國法制の大意を最も平易流暢なる文章にて、懇切周到に説述したるものなり、先づ「根本基礎」より説き起し、「帝國公法大意」「帝國私法大意」に及び細説詳論し、最も明晰なる解釋を與へたり。中學校・師範學校の參考書、補習學校用教科書且つは青年の讀本として最も適切有用の好著なりと信す。

東京法科大学 教授法學博士 和田垣謙三先生校閱 法政講習會 工藤重義君編

經濟讀本

訂正 四版

洋裝美本全壹冊
定價金參拾八錢
郵税金六錢

國家の富強が、國民經濟思想の發達如何に依ることば、夙に識者の認むる所にして、現在の日本に於ては經濟思想の普及發達を計ることの最も緊急なるを感す。本書は即ち此の趣旨に依り、實業補習學校・青年夜學會等の教科用書として編纂したるものなり。其の文章は平易簡明、學説は斬新にして頗る趣味に富み、經濟學の原則より經濟社會の發達活動等専ら本邦現時の制度に依り、これを説明し、又社會問題の如きも最も明快に解決を與へたり。宜なり各地の補習學校・夜學會等に續々採用の榮を蒙り好評を博しつゝあるとや。蓋し又一般人士が必讀の新著なり。

從五位上 細川潤次郎先生序 東宮侍從 本居豐穎先生序 從五位上 木村正辭先生撰

萬葉集美夫君志

和裝美本全壹冊
定價金貳圓五拾錢
小包郵税金拾錢

萬葉集美夫君志全部四卷これ國學の泰斗、文學博士木村正辭先生の撰む所、博士が碩學にして文字の學に精通せられ、殊に萬葉集に於て造詣最も深きは、既に世の普く知る所なり。由來萬葉は國文の基礎にして國歌の典範なり。然り其の雄渾にして天真、壯大にして而も爛漫たる所、古今を通じて其の匹儔を見ずと稱せらる。見るべし本書は博士が數十年來研鑽考究せられたる結果に成れるもの、其の用字の古音古義を闡明し、誤脱を校訂したると、引證該博明晰にして釋義の懇篤なることによりて、吾が國文學界を裨益することの頗る大なることを信す。蓋し志あるの士が必ず架上に備ふべきの珍書なり。

東京高等師範學校教授 吉田彌平君 共編
東京高等師範學校講師 三矢重松君

現代文鈔

和裝美本全壹冊
定價金四拾五錢
郵税金六錢

現時の文章混沌錯雜にして歸する所を知らずと云ひ、或は百花爛漫として美を競ふと云ふ、今茲に其の可否を論ずることなきを、唯此等の文を講評する要あるは萬人の痛しく認むる所なるに、之に適當せる書なきは學界の不備と云はざるべからず。本書は此の缺を補はんが爲めに編纂せるものにして、現代名家の手に成れるものうち、其の文と其の想と之れを慎重に選擇採録せるものなり。蓋し現代の粹を蒐めたる文集として中等以上の諸學校の教科書となすべく、又一般文界の模範たるべきものなり。

東京文科大學 教授文學博士 芳賀矢一先生序 島岡亮太郎君編

假名遣活法

七訂版正

洋裝美本全壹冊
正價金拾五錢
郵税金四錢

本書編纂の目的は現今我が國に於ける假名遣の錯雜紛亂せるものを正して、正格の文章を作るの良師友たらしめんが爲めなり、全篇を分つて三部とし、

- (一) 兩假字遣法にては、發音の變化より假字の混雜を來せる由來を究め、終りに紛れ易き文字を抽出して實地應用の便に供せり。
- (二) 字音假字遣法にては、漢字の傳來、發音の理由を説き、假字遣の爲め一種の簡便法を掲げ、終りに代表字を出して實用に便せり。
- (三) 送假字遣法にては、純粹の學理に偏せず、又漫に簡便を主とせず、折衷主義により、實地と學理とを合せて正格を尖はざらんことを期せり。

要するに、本書は實に我が國、假字遣の全部を包括して、更に餘蘊なく、師範學校中學校の教員、生徒及び小學校教師諸君の座右に供へ、讀書作文の友たらしむるに、必要缺く可からざる良書なり。

大和田建樹先生校訂

源氏讀本

和裝美本四冊
正價卷一、卷二各金拾八錢
卷三、卷四各金廿五錢
郵税金各冊金四錢

『東京朝日新聞』評 此書は源氏物語五十四卷の中より選みて作りたるものなり、大和田建樹氏の校訂に成り、巻尾には語釋を附せり。印刷鮮明にして、而も和裝なれば、學校用として最も適當なり。

『日出國新聞』評 國文教科書として大和田建樹氏が校訂を経たる紫女の源氏物語は、讀本として世に公にせられぬ。紙質良好、印刷鮮明、體裁は日本綴なり、得て有勝の賦植なきは喜ぶべし、教科書として最も適當の書冊なり。

文學博士 黒川眞頼先生序 飯田永夫君校註

標註落窪物語

四訂版正

和裝美本全壹冊
正價金參拾五錢
郵税金六錢

この物語は日本中古の名著として、其の名夙に聞えたるものにて、國文學者の必讀すべきものなること、曩に文部省にて發布せる中學校教授細目意見書にも、國語科讀本に抄收すべき書籍の中に撰定せられたるにも知らるべし、今本書は數多の珍本に據り丁寧懇切に校訂し、且標註をも加へられたれば、何人にも、容易に理解せらるるを得べく、國學に志あるの士は是非一本を備ふべきの良書なりとす。

『讀賣新聞』評 本書は飯田永夫君の校註にて、解し難き箇所は勿論、言葉をも丁寧校訂し、且標本に依て異同を校正せり、此の落窪は物語中にては、竹取、うづつばに次ぐ古きものなるも、註釋としては平井海、橋下隆夫のものを、上下二冊よりなるものありしは、是れは僅に全文の四分の一に止まりて、他に完備のもの無かりしを、著者が其の全部に註釋を施したるの功勞は多とすべし。

前第一篇等 學校教授 久米幹文先生序 飯田永夫君校註

校註竹取物語

七訂版正

洋裝美本全壹冊
正價金拾錢
郵税金貳錢

古へより竹取物語に、註釋を加へたる書はいと多し、されど此の書の如く繁に過ぎず、簡に失せずして、校註者の目的たる教科書となさんに適當のものは他にあらじと思ふ。殊に文中、手爾遠波の大意を示さんとして、傍らに笈柱を附し、言ひ掛け結びの働き等を知らしめたる如き註者の注意の深さを見るべくして、こゝちよし。願くは架上に一本を備へてなん。

『日本新聞』評 竹取物語は新著にあらず、校訂と標註との此のを出てたるに由りて新著には收めしなり、飯田永夫君の校訂して、更に標註には標識し、難語には註釋を加へたる良書なり、久米國文學者、之に序し且此の物語を評し、『上にいるこのむ男のくるうさま』等、是等の書に於てせば、益ありて損なけん。

東京國語傳習所幹事 飯田永夫君著

日本文典大意

四訂版正

和裝美本全壹冊
正價金參拾五錢
郵税金六錢

師範學校・中學校・高等女學校及び教員講習會等の用書に充つる目的を以て、著者が多年教授の實驗に基き、日本文典の要點を明晰に解説せるもの、一面には檢定受験者の參考書として最適當なるものなり。

【教育學術界評】 従て『文典問答』と云へる一書物を出し、國語研究の初學者に於ては便利を興へたる著者の劃新なり。内容は既に書名の示す如く、頗る簡易で、全篇を官制論、文學論とし、『釋名詞』と云ふ一冊と併せて、動詞又は形容詞より轉じて名詞となりたるものを云ふ。云々の様に、問答體に出來て居る、外に是と云ふ新組織もないが、教授法の上からは、著者も自負して居るゝ通り、親切に出來て居る、だから、單に獨學者の伴侶たるに過するのみでなく、中學程度一二年生の教科書として最も好いだらう。

文學博士 木村正辭先生序 飯田永夫君著

日本文典問答

訂正 二版

洋裝美本全壹冊
正價金拾五錢
郵税金二錢

渺乎たる一冊子を以て、漫に天下に重願を荷ふもの豈に偶然ならんや、發行以來好評を博して今や補訂を加へ茲に二十二版を刊行し紙質裝釘に留意し以て江湖の眷顧に酬ひんとす。請ふ愛讀を垂れ玉へ。

【日本新聞評】 文典に對し世所は意欲萌明にして就き易く究り易きあり、近來の文典學者多くは己が才學を銜はんとして、知らず識らず煩瑣に陥り文典を著すの目的を失ひ、此編幸に此病を避け問答體中によく自國の文法を説出し、初學者の爲には誠に入魂の門なり。

【國語新聞評】 近來日本文典の上梓せらるゝもの幾種なるを知らず、然れども多くは古文復古の精神にて、編成したるものなれば普通文用若くは獨學者の爲めに便ならざるの憾みなきにしもあらず、此書は一々西洋文典を模倣として親切に問答して説明し、且つ解剖の法式を示して例題を掲げれば、初學者の練習書として利益あるべし。

米國哲學博士 元田作之進先生序 國民英學會講師 奈倉次郎君講述

ネスノイ第三英文典講義録

卷上 三版 洋裝美本全四冊
卷中 三版 正價 上中各金貳拾五錢
卷下 再版 下中各金拾五錢
續篇 初版 郵税金四錢

ネスノイ第三英文典の特長 とする所二あり。普通の學者學生に適切ならざる理論を避けて、重きを實地應用に置きたる。こと其の一なり。英美人物の爲めにせずして、特に東洋人の爲めに著述したること其の二なり。

特に其の第三卷は説く所周到精密にして予輩英語を研究する者をして、會得解悟せしむる所甚だ多し。此の文典一たび輸入せられて、從來の文典其の跡を英學界に收めんとするに至りしことの偶然にあらずるを知るなり。奈倉君は、英語の研究を一生の事業 となさんとて自ら任ずるの士、殊に文法は其の最も嗜好する所、今斯の人にして斯の文典を講説す、其の英語界を益すること果して如何ぞや。世の文典講義直譯等の名稱を冠せる書籍を見るに著述者往々にして、英語に精通せず、よし精通するも昔と殆んど文典を講究したることなきの士なり。是を以て、試に其の書を一讀するに予輩をして原書と對照するにあらざんば其の果して何事か解釋する者なるかを知るに困むものあり。されど、奈倉君の著述に至りては、即ち全く此の弊を脱せり。然り其の教授を受くる所の學生等が稱に呼びて、

「文典狂」の替辭を呈す。るに至れるより見ても、君の文典に熱心なるか知るべく此の書の内容を知るべきなり。而も其の原書の本文は勿論其の適例として示す所の章句と雖も、精確に之を反譯して殘す所なく、原著者の意蘊を充分に闡明して、遺憾なし、特に前に「附註」の欄を挟みて或は原著者の議論に批評を加へ、或は其の説明の足らざる所を補講し、或は國語文典と對照解釋を試みられたるの一事に至りては、獨り學生を益するのみにあらずるなり。

最後に本書に就て推舉せんとする所は、本書を手に入れば別に原書を參考する必要なき事なり。是れ學生の最も便とする所ならんか。予が社友の著述に對して斯くまで讚辭を呈し、臆面なく世人に推薦し得るは、予の最も喜ぶ所なり。…… (日本英學新誌 久保田總南氏批評)

國民英學會講師 奈倉次郎君 葛西又次郎君共譯

ノスフィールド氏 英文典直譯註釋

第壹卷 正 價 金 拾 五 錢
第貳卷 正 價 金 參 拾 錢

東洋印度人を目的とせるノスフィールド氏の文法が、同じく日本人の歡迎する所となれるは理の當に然るべきものありとす。況んや又現今廣く教科書として採用せらるゝに於てをや。されば同氏の文法書を悉く詳解して世に示さんとする希望も亦故なきにあらざるなり。曩に本書第三卷の講義録を公にし大に世の好評を博せり。今又茲に本書第一卷第二卷の直譯註釋を發行す。其の譯語の適切、註釋の懇切明快なるは今更に贅言を要せざるべし。希くは一本を座右に供へ、斯學研究の友とせられんことを。

英 伊 蘇 普 物 語

改訂 正 洋裝美本全壹冊
版 正 價 金 拾 貳 錢
郵 稅 金 貳 錢

和譯せられたる伊蘇普物語が遍く家庭の讀本となるまでに普及して、其の寓言諷刺が亦少年少女の教訓・夜話の口頭に上れるは既に世の知る所なり。而して其の原著は夙に中等諸學校及び英語學校等に教科書として採用せられつゝあり。本書は即ち其の需に應ぜん爲めに刊行せるものにして、紙質を撰み活字の校正を嚴にし、價格を廉ならしめたる點に於て好評を博したり。

英 文 グ リ ム 童 話

五訂 正 洋裝美本全壹冊
版 正 價 金 貳 拾 錢
郵 稅 金 四 錢

▲明治三十五年五月二十二日 文部省檢定済▼
本書は、平易なる文章を以て、倫理修徳に關する談話を比喩的に記述せしものにて、初級英語學科の教科書、又は參考書に最適當なるものなり。且文部省の教科書標準に基き、大字の活版を用ひ、紙質印刷に留意し、誤字なからんことを期せり。これ斯の種の書中最良のものなりとて、好評を博したる所以なり。
『中外英字新聞』評、グリムの童話は氏が縱横の筆を以て、古今の寓言奇話數十を連綴せるものにして、其の着想の奇なる、讀む者をして驚き快哉を叫ばしむ。而も其の中自ら嚴然たる道徳の存するありて、以て修身の材料となすべく、以て倫理の一端を補ふに餘りあり。今度神田光風館書店、該書英譯の中、明晰にして解し易き物語數則を採譯して翻刻發行せり、材料の選擇宜しきを傳たれば中學校三、四年級の Supplementary Reader として恰好の者ならん。

英 文 ス イ ン ト ン 氏 近 世 史 抄

五訂 正 洋裝美本全壹冊
版 正 價 金 貳 拾 五 錢
郵 稅 金 四 錢

▲明治三十五年六月十七日 文部省檢定済▼
本書は有名なるスイントン氏萬國史の中、近世史の部を抄寫し、文部省の教科書標準に據り大字の活版を用ひ校正を嚴密にし、最も鮮明に印刷せるものなり。發行以來多大の好評を博して數多の學校に採用せられ訂正五版を發行するに至れり。

前第一高等學校教授文學士 長澤市藏先生序
宮城縣古川中學校教諭 鈴木榮藏君訂補 前田儀作君編

萬國歷史問題答案

十訂五版正

洋裝美本全壹冊
正價金拾貳錢
郵税金貳錢

本書は全篇を緒論、上古史、中古史、近世史の四章に別ち、各國の治亂興亡の跡より、政治、法律、風俗、宗教、文學、技藝等の消長變遷に就て、一々疑問を設け、原因結果の關係を簡單明瞭に説示せるものなり。其の初學者の爲めに勞少くして、益大なること、徒に浩瀚の書を涉獵するに優れり。

宮城縣古川中學校教諭 鈴木榮藏君訂補 前田安治君編

萬國地理問題答案

十訂五版正

洋裝美本全壹冊
正價金拾貳錢
郵税金貳錢

本書は緒論、亞細亞、歐羅巴、亞弗利加、南北亞米利加、塊太利亞の七章に別ち各國の位置、面積、地勢、氣候、都府、人口、物産、政體、宗教等の緊要なる諸題目に對し、明瞭確固なる答案を附したるものなり、左れば世界の地理歴史を學ぶ者、此の二書に據らば其の記憶を鞏固にし、如何なる問題に會するも直に答案を得ること恰も快刀を以て亂麻を斷つが如けんなり。

東が物理學校講師理學士 高野潮宗則先生開
宮城縣古川中學校教諭 鈴木榮藏君編

物理學問題答案

十訂五版正

洋裝美本全壹冊
正價金拾五錢
郵税金四錢

本書全篇を總論、力及び動、液體、氣體、音、熱、光、電氣の八章に別ち、最も適切緊要なる問題三百有餘を撰擇し、毎題精確にして周密なる解説を附せり、今や次の化學之部と共に、理化學講習用及び諸學校入學受験用書とし學生諸君の參按に供し、大に裨益あるを信す。

第一高等學校教授理學士 保田棟太先生開
宮城縣古川中學校教諭 鈴木榮藏君編

化學問題答案

十訂五版正

洋裝美本全壹冊
正價金拾五錢
郵税金四錢

本書は曩に發行せる物理學試験問題答案と相俟つて、理化學の綱要を會得せしめんが爲め、全篇を非金屬、金屬の二篇とし、又總論、酸素、水素、窒素、炭素、鹽素、臭素、沃素、弗素、硫黃、セレン、アルミニウム、鐵、錳、クロミウム、錫、銅、鉛、鋅、鎳、鎘、銀、金、白金の十四章に分ち、泰西諸大家の確説、定論に基き、丁寧反覆、諸問題を説示せしものなり。

愛知縣工業
學校長 柴田才一郎先生閱 尾崎元連君編

實業染色物之枝折

再訂版正 洋裝美本全壹冊
正價金 貳拾錢
郵税金 四錢

所謂往古傳來の染色法は化學的染色法の行はるゝに至り全く其の面目を一新せり。其の法簡易迅速にして、巧妙鮮麗、且價格低廉にして糸質を損せざるは況く世の認識する所なり。本書は此の新法を最も明快に説きたるものにして其の初めに染色用の器具・染色用の水を説き木綿・絹の性質及び精練法・漂白法より木綿及び絹の各種の染法・アリザリン顔色素と染法等に及び是を平易に叮嚀に解説したり。されば小學校の女子部・女子補習學校等に用ひて最も適切なるは勿論又家庭に必ず一本を備ふべきものなり。

算法大家 伊藤定太先生著

算法利率新書

和本全壹冊
正價金 參拾五錢
郵税金 貳錢

金錢の取引に利息計算の必要にして、而も大切なるは言ふ迄もなし。即ち本書は精確なる各種の利率表を掲げ、一々運算の方式を示したれば、斯かる場合には最も重寶なるものなり。
「神戸又新日報」評 利息には單利復利あり、其の計算は容易なるが如きも、平生斯かる事に關係せざる人は、往々其の算法を忘却し、複雑なる種類に至つては、他の力を借るの已むを得ざることあり、本書は利息の算法例證に依りて、是を懇切に指示せしものにして、如何なる雜算にても、本書を一見せば立るに其の答を發見し得べき至極重寶の冊子なりとす。

群馬縣師範學校教諭 下平末藏君編

奉公訓話

三訂版正 和裝美本全壹冊
定價金 參拾錢
郵税金 四錢

本書は實業補習學校、徒弟學校及び各商店工場等に於ける男女、又は家庭に於ける召使等の讀本として極めて平易に、正直、從順、勉強、儉約、言語、禮儀、親切、衛生、雇人の心得、忠節の鑑、救の種等の十數章に分ち、總て振假名附きにて何人にも讀み易く解し得べく、修身の要義を説きたるものなり。

長野縣篠井農業學校長 矢田鶴之助君著

農業之榮

再訂版正 美本全壹冊
正價金 拾貳錢
郵税金 四錢

農業之本

再訂版正 美本全壹冊
正價金 拾貳錢
郵税金 四錢

この二冊は、農事の一斑に關すること、例へば種子の話、肥料の話等いろくの話と最も平易に面白く、一つの話の中に收めて、知らず識らずの間に、農業に於ける趣味や、知識を兒童の腦裡に栽え附け、やがて培ひ實らしめんことを欲して、懇切平易に説示したるものなり。

東京理科大学教授 坪井正五郎先生題言
 東京理科大学助手 鳥居龍藏先生序文
 東京人類學會員 日本考古學會員 中村士徳君考案

日本石器時代遺物發見日記

洋裝美本全壹冊
 正價金拾五錢
 郵税金貳錢

此の書は考案者年來の経験に基き、坪井博士の校閲を経て、石器、佩玉兩時代の遺物採集日記用とし、又其の都度何れかの關係學會への報告用を兼ねて考案せられたる最も便利恰當の日記帖なり。されば考古人類・歴史等の諸學に志あるの士は勿論、教師學生其の他杖を郊外に曳かんとするの人士は、必ずや携帶せざるべからざるものなり。

米國人 アール、エツチマギニス君題詞 松本高等女學校教諭
 松本中學校教諭 衣斐彼太郎君題詞 同

矢澤峰四郎君序文
 櫻井濱城君編著

クロック術

再増版訂 洋裝美本全壹冊
 正價金拾貳錢
 郵税金貳錢

最も新らしくして最も趣味あり、最も良く日本の家庭に適し、而も高尚にして温雅なる遊戯法、「クロック術」は、今や各地の各種高等・専門・中・女學校を初め、官吏・銀行・會社等其の他一般の社會及び家庭に向つて大に歡迎さるゝの機に達せり。本書は即ち斯術の起源より説き初め、用具の説明より競技の清新なる遊戯が普く家庭に用ひらるゝに至り、社會風俗改良の一端ともなりなんか。

明治三十六年七月創刊●月刊●一月一回五日定期刊行

A MONTHLY JOURNAL OF SCIENCE.

理學界

正價壹冊金拾五錢郵稅壹錢●前冊六冊金郵稅拾九錢●
 拾貳冊前冊金郵稅拾七錢●代券用壹拾四錢●
 第三卷壹號より御注文にぞ

- 目的 小學、中學、師範學校等に於ける理科教育の進歩を圖り、理學思想の普及發展を圖し、科學的文明の隆興を期し、國運の進歩に伴ひ世界の大勢に後れざらしめんとするにあり。
- 内容 動物學・植物學・礦物學・生理學・物理學・化學・數學・工學・農學・地學・天文學・氣象學等其の他に關する事項の解説と最新なる研究の報導とにあり、其の梗概左の如し。
- ▲口 論 寫真版或は彩色刷石版等により、精巧なる諸種の圖を挿入す。
- ▲學說 理學に關する學說、並に理科教育に關する最近各大家の意見を掲ぐ。
- ▲學術彙報 我が國並に歐米諸國に於ける學者の最新の研究及び出來事等を録す。
- ▲理學之應用 理學の應用に基づく諸般の器械等に就きて其の説明並に圖解を加ふ。
- ▲發明之歴史 發明に關する事項沿革及び科學界に於ける古今の學者の傳記を掲ぐ。
- ▲實驗 物理化學博物其の他に關する實驗の方法及び標本の作り方を示す。
- ▲教授資料 小學校國定教科書其の他につき理科教授に關する教材を録し解説す。
- ▲教授意見 小學校及び中等諸學校に於ける教育者の實驗研究に成る意見を録す。
- ▲理科叢談 通俗的にして最趣味ある斯學の談話を載せ家庭科學を鼓吹せんとす。
- ▲問題解釋 理學に關する重要な問題、並に試験問題等に就き解説釋義を掲ぐ。
- ▲紀行 旅行登山等によりて斯學に關し見聞せし所の諸友諸朋の寄稿を載す。
- ▲通信 各地に於ける寄稿家及び讀者の實驗觀察研究等其の他の通信を録す。
- ▲植物名稱應答 理科大學助手野宮太郎先生の鑑定により其の照會に對して應答す。
- ▲質疑應答 讀者の質問に對して專門學者の答案を掲げ頗る明快懇切を極めたり。
- ▲雜錄 内外に於ける最近の事實、重要な時報等の趣味實益あるものを録す。
- ▲理科思潮 斯學に關し歐米及び日本の雜誌新聞に現はれたるもの梗概を覽む。
- ▲理科叢報 精巧緻密新なる電氣版、寫真版圖畫數多を挿入して説明を加ふ。
- 合本 雜誌の合本が是を散亂せしむるの憂を去り、檢索の便を増し、永く保存し得るの利あるを知らばこれを備ふべし、第一卷、第二卷、第三卷、各冊金壹圓八拾五錢郵稅各金貳拾錢。
- 特色 其の記述する所著實驗圖、而も正確にして材料は豊富、有益有趣にして、挿畫の精巧多なる紙質の純良、印刷の鮮明なる等の故にて於て懇切周到、一頭地を抜けるにあり。

無料通信送金法に就て地方讀書家に告ぐ

●光風館小賣部は理化・博物・數學等其他學術工藝に關する内外圖書の取次販賣をなすを以て專業とす。
 ●光風館小賣部は地方讀書家の利便を計るを以て主眼とす、薄利と誠實と迅速とは其の一大特色なり。
 ●光風館小賣部は振替貯金口座を利用せるを以て何人も無料にて通信送金する事を得其の法左の如し。
 ▲先づ最寄の郵便局にて「振替貯金拂込票」を申受く(無料なり)べし。若し郵便局に無き時は弊館へ請求あらば直に送附す。此用紙は拂込票、拂込通知票、記帳票、受領票の四つに分る、記入法次の如し。

- ① 拂込 票の口座番號の欄に第三二七番と記入す、是れ本館の振替貯金口座番號なり。
- ② 加入者氏名住所の項に、東京市神田區區區保町六番地光風館書店と楷書にて明瞭に記入す、即ち受取人を指定するなり。
- ③ 金額の欄に送金する金額を記入し、拂込人住所氏名の欄には各位の住所氏名を明瞭す。
- ④ 拂込通知票には拂込票と同様に上記の通り記入す。而して記帳票には何事も記入せず其備附し候べし。
- ⑤ 受領票は其郵便局に於て手續の上拂込人に交附する者なり。即ち送金の受領證なれば探りて保存せらるべし。
- ⑥ 通信文記載欄に(拂込通知票の裏面にあり)注文の書名、部數、用件其他通信文を詳細に記入、何程長文にても差支なし。

▲右の如く記入し現金を添へて郵便局に差出せば、其金額は通信文を記入せる拂込通知票と共に直に受取人に廻附さるなり。即ち

▲郵便料、爲替料、貯留料を要せずして、何百圓にても送金し得べく、而も送金不着等の憂なく、又封筒、封筒用紙を用ひずして通信し得べく、全國到る所の郵便局にて無料にて取扱ふなり。

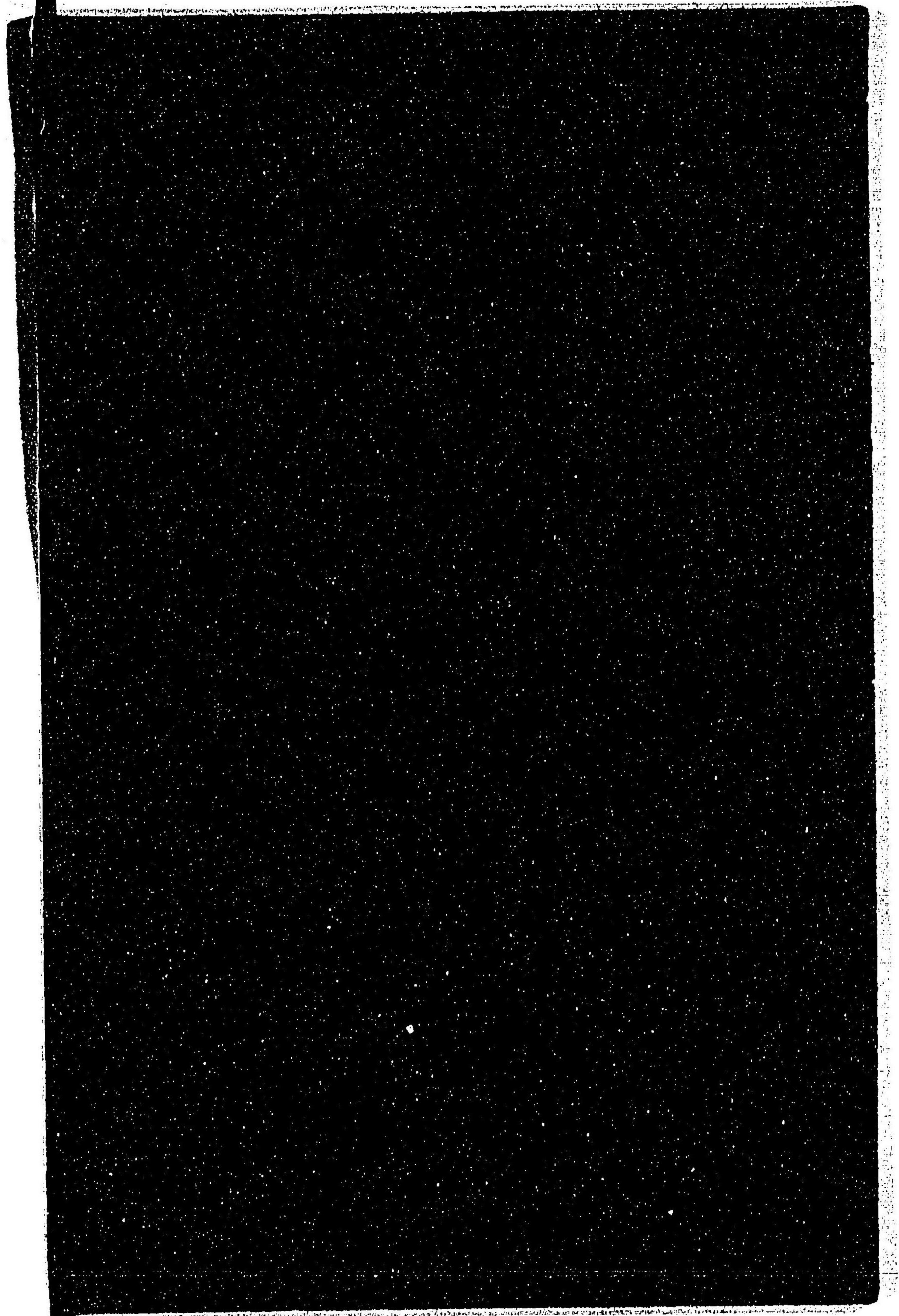
▲是れ豈に簡便なる送金法にして且安全なる送金法にあらずや。乞ふ速に此の文明の利器を利用して以て新知識を收むべく益々讀書に資せられんことを。

東京市神田區區區保町
 光風館書店
 電話本局二千三十九番

光風館書店



836



070113-000-7

特23-977

図画之新趣味

竹内 次郎/著

M41

CEC-1089

